

大学共同利用機関法人

# 人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

要覧 2008







大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

## 要覧 2008

目次

機構長あいさつ	1
設立の経緯と目的	2
組織図	3
人間文化研究総合推進事業	4
人間文化研究総合推進検討委員会	4
連携研究	5
連携展示	7
研究資源の共有化事業	8
知的財産	9
講演会・シンポジウム	10
地域研究推進事業	11
各機関の活動	12
国立歴史民俗博物館	12
国文学研究資料館	16
国際日本文化研究センター	20
総合地球環境学研究所	24
国立民族学博物館	28
資料	32
委員会一覧	32
経営協議会 / 教育研究評議会 / 人間文化研究総合推進検討委員会 / 評価委員会 /	
機構会議 / 企画連携室会議 / 連携研究委員会 / 研究資源共有化事業委員会 /	
地域研究推進委員会	
データ一覧	34
予算・決算 / 職員数 / 共同研究の件数および共同研究員数 在籍 / 研究者の受け入れ・派遣 /	
外部資金の受け入れ / データベース一覧 / 大学院教育	

表紙

「黒麻地梅花入輪葉模様紋縫箔帷子」より  
国立歴史民俗博物館蔵

# ごあいさつ



大学共同利用機関法人・人間文化研究機構は、平成16年(2004)に設立された人文学系の研究組織で、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所および国立民族学博物館の5つの研究機関によって構成されています。本機構は、これらの諸機関がそれぞれの設立目的を果たすとともに、学問の伝統の枠を越えて連合し、自然環境をも視野に入れた人間文化の研究組織として、大学共同利用の総合的研究拠点を形成しようとするものです。

現在、自然と人間の営為が、地球規模で急激に絡み合い、さまざまな難問が顕在化しています。この地球化の時代にあって、すべての学問の基礎である人文学の重要性を再提示するとともに、新しいパラダイムの方向性をも視野に入れつつ21世紀の諸課題に立ち向かおうとしています。

本機構は、こうした目標を達成するための事業のひとつとして、機構を構成する5つの研究機関を中核とし、国内外の大学・研究機関の研究者の参画を得て「連携研究」を実施しています。また、これら5機関が所蔵する膨大な研究資料と、蓄積した研究成果をデジタル化し、これをネット上の共通のプラットフォームで利用できるようにし、あわせて広く情報提供するための「研究資源共有化」事業を本格化させ、その公開を進めています。さらにわが国の地域研究の拠点形成を進めるため、地域研究推進センターを設置し、10余の研究プロジェクトを推進するとともに、そのために本機構が研究者を採用し、各大学へ派遣しています。

本機構の研究者が、それぞれの研究分野における個性を保ちつつ高いレベルの研究成果を創出すると同時に、みずからの専門分野を超えたさまざまな研究プロジェクトに積極的に参画することによって、本機構を人間文化の総合的学術研究の世界的拠点として発展させるべく、今後とも努力を続ける所存です。

平成 20 年 7 月

大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構  
機構長 金田 章裕

# 設立の経緯と目的

大学共同利用機関は、学術研究の拠点として、大規模な施設設備や膨大な資料・情報などを全国の大学等の多数の研究者の利用に供するとともに、それを通じて効果的な共同研究を実施する研究機関です。

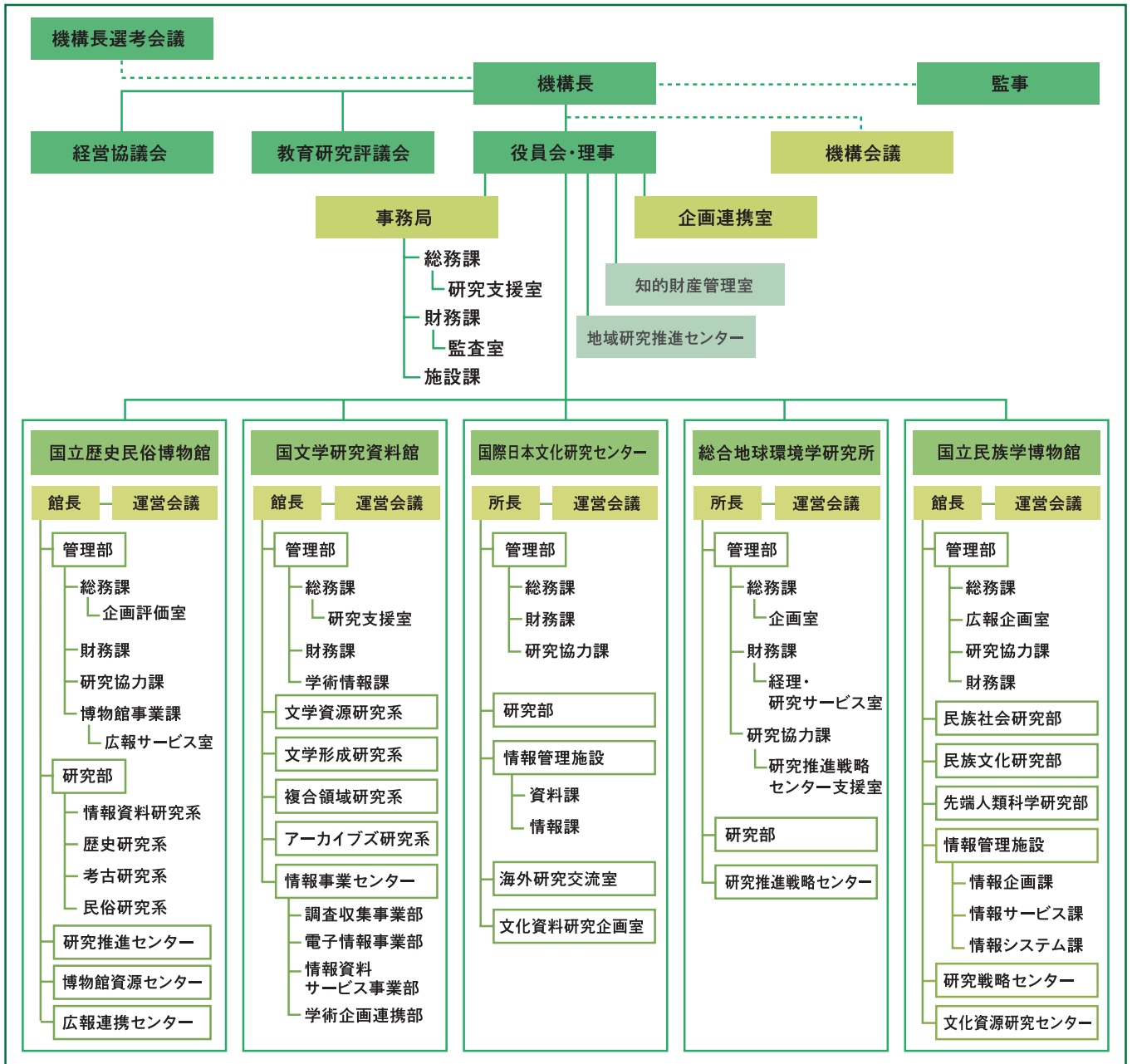
大学共同利用機関の法人化にあたっては、既存の16の研究機関が、人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構の4つの機構に再編されましたが、大学共同利用機関としての役割である共同利用および外部に開かれた運営は機構ごとに充分確保できるよう整備に努めました。

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構は、人間文化に関わる5つの大学共同利用機関（国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館）によって構成され、平成16年（2004）4月に設立されました。

21世紀を迎えた今日、自然と人間の歴史的営為が地球規模で複雑に絡み合った難問が山積しています。それらに対応するために、自然環境をも視野に入れた人間文化に関する総合的研究をめざして、5つの研究機関が旧来の学問の枠を超えて連合し、新しいパラダイムを創出する研究拠点を形成するものです。本機構は、膨大な文化資料にもとづく実証的研究、人文・社会科学の総合化をめざす理論的研究など、時間、空間の広がりを見野に入れた文化に関わる基礎的研究および自然科学との連携も含めた研究領域の開拓に努め、また、課題解決型の研究にも取り組み、文化の総合的学術研究の世界的拠点となることを目標とするものです。

機構を構成する各研究機関とその研究者は、それぞれの個性を保ちつつも、その専門分野を超えた研究プロジェクトに積極的に参加することによって、機構の創造的發展を図ります。本機構には、博物館、資料館の文化資料のナショナルセンターとしての機能を持つ研究機関が参画しています。機構を構成する各研究機関がすでに蓄積し、これからも収集に努める「資料」と「情報」にもとづき、機構内外の研究者の総力を結集して調査研究を実施し、機構全体としてその研究成果を展示、刊行物、さらにはあらゆる情報機能などを活用することにより広く国内外に発信し、学術文化の進展に寄与することをめざすものです。

# 組織図



## 機構役員

金田章裕 機構長  
 篠原 徹 理事  
 中尾正義 理事  
 小林敬治 理事(非常勤)  
 石上英一 理事(非常勤)  
 松澤員子 監事(非常勤)  
 新保博之 監事(非常勤)  
 大崎 仁 機構長特別顧問

## 各機関の長

平川 南 国立歴史民俗博物館長  
 伊井春樹 国文学研究資料館長  
 猪木武徳 国際日本文化研究センター所長  
 立本成文 総合地球環境学研究所長  
 松園万亀雄 国立民族学博物館長

## 企画連携室

篠原 徹 理事  
 常光 徹 国立歴史民俗博物館・副館長  
 鈴木 淳 国文学研究資料館・副館長  
 白幡 洋三郎 国際日本文化研究センター・研究調整主幹  
 秋道智彌 総合地球環境学研究所・副所長  
 田村克己 国立民族学博物館・副館長

## 事務局

辻田政昭 事務局長  
 井上明夫 総務課長  
 大西 由喜男 財務課長  
 甲州 与志雄 施設課長

# 人間文化研究総合推進事業

21世紀における人類にとってもっとも重要で緊急の課題は、地球における人類の存続と、世界における人間の共生です。この難問を解く鍵は「文化」にあるとの発想に基づき、人間文化研究機構は人間文化研究の新たな領域を、従来の枠組みを超えて創出し、先端的・国際的な研究を展開するため、次の事業を実施しています。

人間文化研究総合推進検討委員会

人間文化研究資源の共有化推進

人間文化研究機構内外機関の連携研究などの推進

国際連携協力

情報発信 など

人間文化研究総合推進事業は、法人化2年目(平成17年度)から措置された特別教育研究経費により実施されており、着実に成果を挙げています。

## 人間文化研究総合推進検討委員会

人間文化に関する新たな研究推進の方向、推進すべき領域、課題およびそのための研究体制の構築などを検討します。平成20年度から機構の機構長や理事などの役員が新たになり、前年度までの事業を継承しつつ新たな事業も創出していきます。総合推進検討委員会の前年度までの検討を踏まえて、今年度は人間文化研究の新たな領域創出のための具体的な検討を始めます。そのためいくつかの研究会を公募し、第2期中期計画・中期目標の素材になるような研究と研究枠組みを模索します。すでにスタートしている検討部会の内容と今年度加えた方針について以下に記します。

1. 「大学共同利用機関における博物館の役割」検討部会  
本機構には従来2つの博物館を有する機関がありましたが、今年度から国文学研究資料館の立川移転に伴い、移転した施設に国文学研究資料館にふさわしい展示施設が併設されたことにより博物館施設を有する機関は3つとなりました。研究成果を展示することがで

きる機関が3つになったことによって、博物館の役割は重要になると考えられます。連携研究の成果を中心とした連携展示の可能性については今後も追求していきます。第2期中期計画・中期目標を念頭においた連携展示については、各機関の個別の展示(展示施設をもたない機関でも可能)と連携研究を連動させることができればこの総合推進経費にその枠組みを作ります。

2. 「法人2期における研究連携」検討部会

平成17年度に開始された連携研究は、機構内外の研究員の参加を得て、順調に展開してきました。連携研究は平成21年度には終了する予定ですが、その成果と研究の仕組みをさらに発展・展開させるとともに、わが国の人文科学全体を見通して、その統合的な切り口と人文科学プロパーの新しい観点を検討することを目的とします。それを実現するための戦略と体制を、また外部資金獲得を視野に入れて検討します。このための予備的なこととして、人間文化研究の今後の在り方を検討する活動と、第2期における新たな連携研究立案に向けたパイロット研究的な活動をこの総合推進で行っていきます。

3. 「国際連携協力」検討部会

機構を構成する5つの機関は、それぞれのミッションに従い、従前から独自の国際連携を行ってきました。現在、オランダ、フランス、イギリスの研究機関と協力協定を機構として行っていますが、これに連動する各機関の国際連携活動の補助を推進することを20年度から行います。今後はこれ以外の国や研究機関との国際連携を視野に入れながら方策を検討していきます。



## 連携研究

日本の近代以降、人文科学の最大の研究機関となった人間文化研究機構には、混迷する21世紀の文明と歴史に対して、新たな人間文化研究のパラダイム転換が求められています。機構が緩やかな結合ながらそれぞれに特質のある5つの研究機関で構成されていることこそが、それを可能にする潜在力であると考えられます。機構発足時からそのための模索は続き、機関や機構を超えて組織された「連携研究」はひとつの試行的な研究でありました。第1期中期計画・中期目標の主要な研究であった「連携研究」を、どのように第2期中期計画・中期目標に発展的につなげていくのか、今後の大きな課題です。

機構を構成する5つの大学共同利用機関はそれぞれの分野における研究のセンター的な役割を担ってきました。個別の大学では扱えない研究資料群を重点的に収集・整理・調査・研究し、全国の研究者の利用に供してきたことは各機関が担う最大の役割のひとつです。各機関は個別に大学共同利用機関として内外の多くの研究者との共同研究を行ってきました。この各機関が培ってきた研究基盤と成果を有機的に結合させて、それをさらに高次元のものに発展させる目的で「連携研究」は意図されてきました。

連携研究には2つの大きな柱があり、ひとつは「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」であり、いまひとつは「文化資源の高度活用」です。「日本とユーラシアの交流に関する総合的研究」は、日本とユーラシア、とりわけアジアとの交流およびその歴史的様相について、各機関の研究の蓄積を結合させ、機構外の研究者との協業もはかりながら、総合的に研究を行うことで、人間文化研究の新たな領域の創成を目指しています。全体は5年計画で、21年度が最終年度で成果の取りまとめを行います。

## 平成19年度連携研究におけるシンポジウム・研究会開催および刊行物発行

- ユーラシアと日本：交流と表象(国立歴史民俗博物館：久留島浩)
- ・国際シンポジウム「ユーラシアと日本：いまなぜ国民国家か——国民国家の過去・現在・未来」(20.3.1～3.2) 日本周辺海域における物質と情報の往来
  - ・研究会 / ホテル金石館 (19.5.11)
  - ・サイエンスカフェ / 旭川市博物館 (19.11.10)
- 国民国家の比較的研究
  - ・アジアにおける国民国家構想 / 早稲田大学：アジア民衆史研究会と共催 (19.12.8)
- 人間の移動から見た国民国家
  - ・国際シンポジウム「東アジアの移民研究」Transnational Movement of People in East Asia: Japan in Comparative Focus / 国立民族学博物館 (19.5.31～6.1)
- ユーラシアにおける音楽・芸能と交流のイメージ
  - ・研究集会「映像で八月踊りを記録する」 / 奄美市立奄美博物館 (19.11.11)
- 唱道文化の比較研究
  - ・人間文化研究機構連携研究「ユーラシアと日本」重要無形文化財第50号 霊山斎保存会2007年「第5回国際学術会議」 / 韓国・奉元寺 (19.9.2)
- 刊行物 —
- ・2006年度国際シンポジウム「ユーラシアと日本：境界の形成と認識——移動という視点」
- ・国際ワークショップ「19世紀中東・バルカンへの新しいアプローチ——オスマン帝国における近代国家の形成」
- ・「アジア国民国家構想——近代への投企と葛藤」
- ・「大衆芸能の世界——唱道文化の日韓比較研究への試み」
- ・シンポジウム「ユーラシアと日本：いまなぜ国民国家か——国民国家の過去・現在・未来」
- ・「深奥の中国——少数民族の暮らしと工芸」図録
- ・「東アジア内海世界の交流史——周録地域における社会制度の形成」加藤雄三・大西秀之・佐々木史郎編 京都：人文書院
- ・「映画で八月踊りを記録する」

湿潤アジアにおける「人と水」の総合的研究（総合地球環境学研究所：秋道智彌）

- ・世界水フォーラム会議 / パリ(ユネスコ本部)(20.1.7 ~ 8)
- ・プレシンポジウム「水と文明」 / 総合地球環境学研究所 (20.3.26)

—— 刊行物 ——

- ・研究連絡誌「人と水」(特集：水と生業) 3号
- ・研究連絡誌「人と水」(特集：水と地球環境) 4号

文化と往還(国文学研究資料館：谷川恵一)

- ・国際シンポジウム「集と断片——国際共同研究の新たな世界」 / 国文学研究資料館 (19.9.25)
- ・国際シンポジウム「東アジアにおける近代語彙——その成立、流布、定着、変容をめぐって」北京大學 (19.10.16 ~ 10.18)
- ・国際シンポジウム「文化の往還——「中心」と「周縁」 / 北京外国語大学 (19.10.21)

—— 刊行物 ——

- ・文化の往還 News Letter No.2
- ・『東アジアにおける知的システムの近代的再編をめぐって——北京大學国際シンポジウム、2007より』 / 国際日本文化研究センター

武士関係資料の総合化——比較史及び異文化表象の素材として(国立歴史民俗博物館：小島道裕)

—— 刊行物 ——

- ・「文化資源の高度活用 武士関係資料の総合化——比較史及び異文化表象の素材として」

中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究(国立歴史民俗博物館：吉岡眞之)

—— 刊行物 ——

- ・「人間文化研究機構連携研究(文化資源の高度活用)中世近世の禁裏の蔵書と古典学の研究——高松宮家伝来禁裏本を中心として 研究調査報告2」

「日本の実業史博物館」資料の高度活用(国文学研究資料館：青木睦)

- ・シンポジウム「幻の博物館の『紙』」 / 国文学研究資料館 (19.6.9)

—— 刊行物 ——

- ・「復活!日本実業史博物館 調査報告2007年——『幻の博物館の“紙”——「日本実業史博物館」旧蔵コレクション展』(DVD版)
- ・パンフレット「日本実業史博物館とは」
- ・パンフレット「日本実業史博物館の『広告』」
- ・パンフレット「日本実業史博物館の『算盤』」

東アジア近代史資料の再構築(国際日本文化研究センター：合庭惇)

- ・国際集会「日本歴史研究資料資源の再開発を考える」 / 国際日本文化研究センター (20.3.26)

アイヌ文化の図像表象に関する比較研究——『夷酋列像図』とマンローコレクションのデジタルコンテンツ化の試み(国立民族学博物館：佐々木史郎)

- ・研究フォーラム「蠣崎波響と『夷酋列像』の世界」 / 松前町民総合センター (19.9.29)
- ・国立民族学博物館所蔵蠣崎波響『夷酋列像』模本展示会 / 松前城資料館 (19.9.29 ~ 10.1)
- ・研究打ち合わせ / ブザンソン美術館、夷酋列像渡仏の経緯に関する調査 / リヨン、アヴィニヨン (20.1.11 ~ 1.19)
- ・研究会 / 国立民族学博物館 (20.2.23 ~ 2.24)

—— 刊行物 ——

- ・「研究フォーラム要旨集」

日本コロンビア外地録音のディスコグラフィ的研究(国立民族学博物館：福岡正太)

- ・「東アジアの録音文化——音と美をめぐって」 / 東京大学東洋文化研究所 (19.11.13)
- ・国際セミナー「外地録音研究会 招待セミナー」国際日本文化研究センター (19.11.24)

—— 刊行物 ——

- ・「日本コロンビア外地録音ディスコグラフィ——朝鮮編」
- ・「日本コロンビア外地録音ディスコグラフィ——上海編」



## 連携展示

人間文化研究機構は、膨大な研究資料・情報を収集、調査研究し、そして提供することを共同利用の形態・機能のひとつに掲げています。国立歴史民俗博物館・国立民族学博物館は大規模な展示施設を有し、常設展示・企画展示を行っています。さらに、国文学研究資料館も、平成20年3月に立川の新庁舎に移転し、展示室の公開を開始しました。

大学共同利用機関としては、共同研究をはじめとする種々の研究成果について、刊行物・データベース・講演会・シンポジウムなどに加えて、迅速に学界に展示公開し、あわせて社会連携の推進のために広く国民に供覧することが必要です。機構の連携事業として、研究資源共有化事業を推進するとともに、各機関の共同研究の成果などを展示公開することは、本機構が有する重要な機能です。そこで、展示形態の一つとして、複数機関が連携して研究成果を公開する「連携展示」を推進しています。



『幻の博物館の「紙」』展示図録

うたのちから ― 和歌の時代史

平成17年10月18日～11月27日

国立歴史民俗博物館

うたのちから ― 古今集・新古今集の世界

平成17年10月28日～11月18日

国文学研究資料館

平成17年(2005)は、最初の勅撰和歌集『古今和歌集』が編纂された延喜5年(905)から1100年目、第8番目の勅撰和歌集『新古今和歌集』が編纂された元久2年(1205)から800年目の年に当たります。古今和歌集・新古今和歌集を軸に、王朝文学から中世和歌までをたどります。

幻の博物館の「紙」

― 日本実業史博物館旧蔵コレクション展

平成19年5月28日～6月15日

国文学研究資料館

平成20年1月16日～2月11日

国立歴史民俗博物館

財界人として活躍した渋沢敬三(1896～1963)は、戦前に「近世経済史博物館」の設立を構想し、近世・明治の資料収集を行いました。この構想は戦後、「日本実業史博物館」として続けられましたが、ついに実現しませんでした。博物館設立のための収集資料は、1962年に、文部省史料館(現、国文学研究資料館)に寄贈されました。展示は、博物館の「製紙」部門に関わる様々な紙資料を公開するもので、機構の連携研究「日本実業史博物館資料の高度活用」の研究成果です。

## 研究資源の共有化事業

人間文化研究機構を構成する5機関は、人間文化に関する多様な研究データベースの構築・発信を進めてきました。それら膨大な研究情報は、新しい研究環境を生み出し、各分野における研究の展開に大いに寄与してきました。しかし、それらのデータベースは、各専門分野研究で必要と考えられる検索方法・検索結果表示方法により運用されるものであり、また膨大な量のデータ群から

なります。そのために、新視点や他分野から、いくつかのデータベースを総合的に利用しようとする場合に、必ずしも期待にそった結果がえられるとは限りませんでした。

そこで、人間文化研究機構は、5機関のデータベース構築の成果を受け継ぎ、さらなる利用発展を図るため、平成17年度から、5機関のデータベースの横断利用による幅広い学際的なアプローチを支援する研究環境の構築のために、研究資源共有化推進事業を進めてきました。

### 資源共有化システムで利用できるデータベース

#### 国立歴史民俗博物館

館蔵資料	中世制札(文献)
館蔵中世古文書	中世地方都市(都市)
館蔵近世・近代古文書	中世地方都市(文献)
館蔵紀州徳川家伝来楽器	陶磁器出土遺跡(遺跡)
館蔵武器武具(実物資料)	陶磁器出土遺跡(文献)
館蔵武器武具(文献史料)	土偶
館蔵錦絵	近世窯業遺跡
館蔵『懐溜諸屑』	近世窯業関係主要文献目録
館蔵縄文時代遺物	城館城下発掘(遺跡)
館蔵装身具	城館城下発掘(文献)
兼顕脚記	弥生石器遺跡(遺跡)
歴博図書目録	弥生石器遺跡(図面)
日本荘園	東国板碑(遺跡等)
荘園関係文献目録	東国板碑(板碑)
自由民権運動研究文献目録	東国板碑(文献)
棟札	民俗誌
古代・中世都市生活史	日本民俗学文献目録
江戸商人・職人	宮座研究論文
中世制札(制札)	

#### 総合地球環境学研究所

世界地図	西表文献
所蔵図書	映像資料

#### 国立民族学博物館

標本資料目録	身装文献
標本資料詳細情報	衣服・アクセサリー
図書目録	音楽・芸能の映像
雑誌目録	
中西コレクション	

#### 国文学研究資料館

収蔵アーカイブズ情報	新奈良絵本画像
吾妻鏡	歴史人物画像
絵入り源氏物語	国文学論文目録
二十一代集	近代文献情報(明治期出版広告)
日本古典文学本文	史料情報共有化
図書・雑誌所蔵目録	和刻本漢籍総合
近代文献情報(近代書誌・近代画像)	館蔵神社明細帳
コーニツキー版 欧州所在日本古書	連歌・演能・雅楽
総目録	古典学統合百科(伝記解題)
古筆切所収情報	古典学統合百科(地下家伝・芳
「史料所在情報・検索」システム	館蔵和古書画像
『古事類苑』	日本古典籍総合目録

#### 国際日本文化研究センター

貴重書	日本研究
西洋医学史古典文献(野間文庫)	於竹大日如来縁起絵巻
宗田文庫図版資料	怪異・妖怪伝承
日本研究機関	季語検索
絵巻物	近世崎人伝(正・続)
怪異・妖怪絵姿	考古学GIS
近世風俗図会	図録 米欧回覧実記
ちりめん本	錦絵観音霊験記の世界
米国議会図書館所蔵奈良絵本	俳諧
米国議会図書館所蔵浮世絵	連歌
平安京都名所図会	和歌
平安人物志短冊帖	在外日本美術
平安人物志	日本関係欧文図書目録
都年中行事画帖	所蔵地図
Japan Review	
日文研フォーラム報告書	

## 研究資源共有化システム公開

人間文化研究機構は、研究資源共有化推進事業の成果として、5機関の構築した既存の100余のデータベースを一度に横断検索できる「統合検索システム」を完成させ、平成20年4月1日より、人間文化研究機構および5機関のホームページから公開を開始しました。

また、人間文化研究に不可欠な時間（年代・時代など）と空間（地理的位置・地名など）を用いた時空間分析・検索システム「GT-Map/GT-Time システム」の研究開発を進め、「統合検索システム」からも時空間検索システムの基本部分を利用できるようにしました。

さらに、研究者の多様な研究形態に則したデータベースの加工が容易に可能となるアプリケーション「nihUONE」の開発も行いました。

人間文化研究機構は、研究資源共有化システムが、5機関や諸大学・研究機関のみならず、多方面から活発に利用され、人間文化研究の発展に寄与することを期待しています。

## 人間文化研究資源共有化一般公開記念フォーラム

平成20年3月10日(月)  
国際交流基金国際会議場

## シンポジウム 研究資源共有化 ― その展開と可能性

平成20年3月14日(金)  
情報・システム研究機構会議室

## 知的財産

人間文化研究機構では、機構の知的財産の創出・取得・活用に戦略的に取り組んでおり、機構を構成する各機関でもまた、研究・教育の過程において創出・獲得された知的財産を管理・運用するだけでなく、積極的に社会に還元するための体制を整えてきました。機構に設けられた知的財産管理室では、知的財産に関する体制整備を推進するとともに、知的財産について広く研究者の理解がおよぶように周知策を講じています。

人間文化研究機構としてのデータベースに加えて、各機関で研究支援のための数多くのデータベースを構築してきており、インターネットなどを通じて有償・無償で公開してきました。人間文化研究機構では、今後も知的財産管理室を中心として、機構を構成する各機関に所蔵の資料・写真の熟覧・貸与、著作物の使用許諾など、上記の活動にともなって求められる知的財産の一層の効率的な管理・運用に努める予定です。

## 人間文化研究機構知的財産セミナー

平成18年度セミナー等の実施事業

第1回「著作権をはじめとするさまざまな知的財産関係の具体的事例、疑問等に関する質疑応答」

平成19年2月20日(火)

総合地球環境学研究所

講師：藤川義人（弁護士・弁理士、淀屋橋・山上合同法律事務所）

第2回「情報共有化時代の著作権」

平成19年3月7日(水)

人間文化研究機構

講師：野口祐子（弁護士、クリエイティブコモンズ・ジャパン事務局長 / 森・濱田・松本法律事務所）

平成19年度セミナー等の実施事業

第1回「文化資料の利用と著作権」

平成19年12月12日(水)

人間文化研究機構

講師：尾崎史郎（独立行政法人メディア教育開発センター教授、元文化庁著作権課マルチメディア著作権室長）

第2回「知的財産に関する基礎知識」

平成20年1月18日(金)

総合地球環境学研究所

講師：佐田洋一郎（国立大学法人山口大学教授、知的財産本部長）



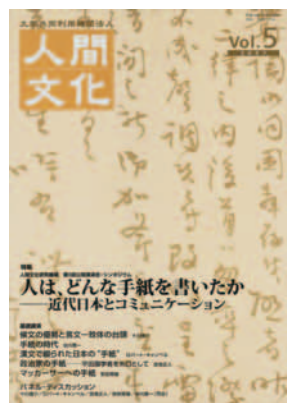
## 講演会・シンポジウム

人間文化研究機構では、国立歴史民俗博物館、国文学研究資料館、国際日本文化研究センター、総合地球環境学研究所、国立民族学博物館という専門を異にする5つの研究機関が結ばれたメリットを生かし、より新しく、より幅の広い人文科学の創出をめざすとともに、さまざまな研究活動を展開しています。これによって得られた学問的成果を広く知っていただくために、定期的に公開講演会・シンポジウムを開催します。

講演会・シンポジウムの内容は広報誌『人間文化』に掲載し公開しています。



広報誌『人間文化』Vol.4



広報誌『人間文化』Vol.5



広報誌『人間文化』Vol.6



広報誌『人間文化』Vol.7

人間文化研究機構設立記念公開講演会・シンポジウム  
「今なぜ、人間文化か」

平成16年9月25日(土)  
一橋記念講堂

人間文化研究機構第2回公開講演会・シンポジウム  
「歩く人文学——人文学と社会の新しい関係」

平成17年6月25日(土)  
大阪国際会議場

人間文化研究機構第3回公開講演会・シンポジウム  
「人が創った植物たち」

平成17年10月6日(木)  
有楽町朝日ホール

人間文化研究機構第4回公開講演会・シンポジウム  
「人はなぜ花を愛でるのか？」

平成18年5月27日(土)  
国立京都国際会館

人間文化研究機構第5回公開講演会・シンポジウム  
「人は、どんな手紙を書いたか——近代日本とコミュニケーション」

平成18年9月30日(土)  
一橋記念講堂

人間文化研究機構第6回公開講演会・シンポジウム  
「世界に広がる日本のポップカルチャー——マンガ・アニメを中心として」

平成19年6月2日(土)  
有楽町朝日ホール

人間文化研究機構第7回公開講演会・シンポジウム  
「国際開発協力へのまなざし——実践とフィールドワーク」

平成19年11月30日(金)  
IMPホール

人間文化研究機構第8回公開講演会・シンポジウム  
「新しい近世史像を求めて」

平成20年6月8日(日)  
東商ホール

# 地域研究推進事業

人間文化研究機構は、わが国にとって学術的、社会的に重要な意義を有する地域の文化、社会を、総合的に理解、解明するため、関係大学・機関と協力して、平成18年度から、「地域研究推進事業」を開始しました。

## 事業の実施方式

本事業は、関係大学・機関と研究拠点を共同設置し、拠点間のネットワークを構築して、研究を推進する新しい方式の研究事業です。

対象地域は、学識経験者で構成する「地域研究推進委員会」において、「イスラーム地域」と「現代中国」を選定しました。まず「イスラーム地域」について、研究基本計画と研究計画を策定して研究体制を整備し、すでに平成18年度から研究を進めています。

「現代中国」についても研究基本計画と研究計画を策定して研究体制を整備し、平成19年度から研究を開始しています。

## イスラーム地域研究の推進

イスラーム地域研究は、以下のとおり関係大学・機関と共同で研究拠点を設置し、早稲田大学に設置した「現代イスラーム地域研究センター」を中心にネットワークを構築して、研究を進めています。

早稲田大学イスラーム地域研究所「現代イスラーム地域研究センター」

- ・センター長.....佐藤次高（早稲田大学イスラーム地域研究所長、文学学術院教授）
- ・中心テーマ.....「イスラームの知と文明」  
東京大学大学院人文社会系研究科附属次世代人文学開発センター「イスラーム地域研究部門」
- ・部門の長.....小松久男（東京大学大学院人文社会系研究科教授、次世代人文学開発センター流動教員）
- ・中心テーマ.....「イスラームの思想と政治：比較と連関」  
上智大学アジア文化研究所「イスラーム地域研究拠点」
- ・拠点代表.....私市正年（上智大学外国語学部教授）
- ・中心テーマ.....「イスラームの社会と文化」

京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科「附属イスラーム地域研究センター」

- ・センター長.....小杉泰（京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）
- ・中心テーマ.....「イスラーム世界の国際組織」  
財団法人東洋文庫研究部「イスラーム地域研究資料室」
- ・室長.....三浦徹（お茶の水女子大学理事・副学長、東洋文庫研究員）
- ・中心テーマ.....「イスラーム地域研究史資料の収集・利用の促進とイスラーム史資料学の開拓」

## 現代中国地域研究の推進

現代中国地域研究は、以下のとおり関係大学・機関と共同で研究拠点を設置し、早稲田大学に設置した「現代中国研究所」を中心にネットワークを構築して、研究を進めています。

早稲田大学アジア研究機構「現代中国研究所」

- ・所長.....毛里和子（早稲田大学政治経済学術院教授）
- ・中心テーマ.....「中国の発展の持続可能性」  
京都大学人文科学研究所「附属現代中国研究センター」
- ・センター長.....森 時彦（京都大学人文科学研究所教授）
- ・中心テーマ.....「人文学の視角から見た現代中国の深層構造の分析」  
慶應義塾大学東アジア研究所「現代中国研究センター」
- ・センター長.....国分良成（慶應義塾大学東アジア研究所長、法学部教授）
- ・中心テーマ.....「中国の政治的ガバナンス」  
東京大学社会科学研究所「現代中国研究拠点」
- ・運営委員長.....田嶋俊雄（東京大学社会科学研究所教授）
- ・中心テーマ.....「中国経済の成長と安定」  
人間文化研究機構総合地球環境学研究所「中国環境問題研究拠点」
- ・リーダー.....鄭 躍軍（総合地球環境学研究所准教授）
- ・中心テーマ.....「中国の社会開発と環境保全」  
財団法人東洋文庫「現代中国研究資料室」
- ・室長.....高田幸男（明治大学文学部准教授、東洋文庫研究員）
- ・中心テーマ.....「現代中国研究資料の収集・利用の促進と現代中国資料研究の推進」



国立歴史民俗博物館全景

## 概要

国立歴史民俗博物館(歴博)は、昭和56年(1981)に大学共同利用機関として、設置されました。

歴博は、歴史・考古・民俗および情報資料の4研究系による学際的・総合的な協業に基づく研究を進めてきました。博物館は学術資料、情報の収集、整理、保存、調査研究そして提供という一連の機能を有することを最大の特色としています。そこで、博物館という形態を活かした新しいスタイル「博物館型研究統合」を提唱することにしました。「博物館型研究統合」とは、〈資源〉〈研究〉〈展示〉という3つの要素を有機的に連鎖させ、さらにそれらの要素を国内外の人々と幅広く〈共有・公開〉することによって、博物館という形態を最大限に活かした研究を推進することです。

また、歴博の重要な役割は歴史資料・情報の収集、整理、保存、調査研究そして提供(展示・出版、情報データベースなど)という一連の機能を、大学共同利用機関として国内外の研究者が存分に共同利用できることにあり、あわせて研究活動を通じて次代を担う研究者を育成することです。

その機能のうちでも展示は、歴博にとってきわめて意義ある事業のひとつです。開館以来26年を経た今、現状の総合展示は研究の進展を十分に反映しておらず、また、

国際化および一般市民の知的需要にも応えきれていないということなどからリニューアルの要請が年々高まってきました。このような急激に変化する現代社会の要請に応えるためには、最新の研究成果を反映した総合展示の見直しが不可欠であり、新たに総合展示の全面的な再構築を実現する必要があります。そこで、総合展示リニューアル基本構想に基づき、国内外の研究者による展示プロジェクト委員会を組織し、十分に検討を行い、ようやく平成20年3月18日に一新した第3展示室(近世)をオープンしました。

## 研究

歴博では、全国の大学、研究所等の研究者の参画を得て、専門を異にする複数の研究者が共通の研究課題のもとにプロジェクトを組織し、共同研究(基幹研究・基盤研究・個別共同研究)を実施しています。

基幹研究は、大きな研究課題のもとに学際的研究をめざす課題を設定したものであり、基盤研究は、収蔵資料の高度情報化や、新しい歴史研究の方法論的基盤を作るための課題を設定しています。この2つを「共同研究」の核とすれば、個別共同研究は、歴史学・考古学・民俗学並びに関連諸科学に固有な課題や、今後発展しうる萌芽的課題を設定し、共同研究全体を裏切るものとする役割を担っています。それぞれの平成20年度における研究テーマは次のとおりです。

### 基幹研究

- ・20世紀に関する総合的研究
- ・列島における生活誌の総合的研究
- ・交流と文化変容に関する史的研究

### 基盤研究

- ・科学的資料分析研究
- ・総合的年代研究
- ・高度歴史情報化研究
- ・博物館学的研究

### 個別共同研究

- ・身体と人格をめぐる言説と実践
- ・東アジア先史時代の定住化過程の研究





研究会風景

## 共同利用

### 1. 資料収集等

歴博では、実物資料・複製資料・音響映像資料およびこれに関連する資料を計画的・継続的に収集しており、平成20年3月現在、215,759点(うち国宝5点、重要文化財85点、重要美術品27点)収蔵しています。また、蔵書冊数は288,571冊となっています。

### 2. 情報提供

研究報告書の刊行

共同研究などの成果は『国立歴史民俗博物館研究報告』として刊行するとともに、研究情報を網羅した『国立歴史民俗博物館年報』、さらに歴史系総合誌『歴博』『展示図録』『資料目録』などを刊行しています。

データベースの公開

収蔵資料を広く公開し、研究利用に資することを目的とした館蔵資料データベースと諸分野の文献目録や共同研究の成果を収録したデータベース、記録類の全文データベース(計42本)を提供しています。

資料閲覧

研究者を対象とした資料閲覧(熟覧)の他に、平成16年7月から近世・近代文書の実物またはマイクロフィルムと館蔵資料のマイクロフィルム紙焼製本(部分)の即日閲覧を実施しています。対象資料は順次追加しています。



資料調査風景

### 3. 展示

総合展示

歴博の総合展示(常設)は、民衆の生活史に重点を置いて構成し、5つの展示室に分かれています。第1展示室から第3展示室では、原始・古代から中世をへて近世に至る歴史を時代順に配置し、第4展示室では民俗世界を、第5展示室では近代のテーマを配置しています。これらのテーマは、それぞれ館内外の研究者による展示プロジェクト研究を基礎にしています。また最新の研究動向を踏まえ、その研究成果を展示に反映するために総合展示のリニューアルを進めており、第3展示室「近世」が平成20年3月18日にリニューアルオープンしました。ここではボランティアを導入して運営する体験コーナー「寺子屋 れきはく」や、館蔵実物資料によるミニ企画展示や研究速報展示ができるように企画展示室仕様の副室を2箇所設置し、今年度は5回のミニ企画展示を開催する予定です。

・「海を渡った漆器」

平成20年3月18日(火)~5月18日(日)

- ・「近代医学の発祥地・佐倉順天堂」  
平成20年6月3日(火)~6月29日(日)
- ・「伝統の朝顔」  
平成20年7月29日(火)~9月7日(日)
- ・「紀州徳川家伝来の楽器——笙」  
平成20年10月7日(火)~12月7日(日)
- ・「和宮ゆかりの難かざり」  
平成21年2月10日(火)~3月8日(日)

企画展示

共同研究プロジェクトおよび資料収集の成果を公開する方法のひとつとして、企画展示があり、平成20年度は3回の開催を予定しています

- ・旅——江戸の旅から鉄道旅行へ  
平成20年7月1日(火)~8月31日(日)
- ・[染]と[織]の肖像——日本と韓国・守り伝えられた染織品  
平成20年10月15日(水)~11月30日(日)
- ・錦絵はいかにつくられたか  
平成21年2月24日(火)~5月6日(水)

なお、平成7年に開設された「くらしの植物苑」では、生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽し、「食べる」「織る・漉く」「染める」「治す」「道具をつくる」「塗る・燃やす」のテーマで、植物を通じてくらしの歴史を展示しています。また、特別企画「季節の伝統植物」として伝統的に栽培された園芸植物等に関する展示を今年度は5回開催します。

- ・「伝統の桜草」  
平成20年4月15日(火)~5月6日(火)
- ・「伝統の朝顔」  
平成20年7月29日(火)~9月7日(日)
- ・「伝統の古典菊」  
平成20年10月28日(火)~11月30日(日)
- ・「冬の華・サザンカ」  
平成20年12月2日(火)~平成21年2月1日(日)
- ・「ブナの林と木地屋の世界」  
平成21年2月10日(火)~3月29日(日)



「長岡京遷都——桓武と激動の時代」展



「幻の博物館の『紙』」  
——日本実業史博物館旧蔵コレクション」展



くらしの植物苑風景

## 社会連携

歴博では共同研究などの成果を展示という形だけでなく、さまざまな普及活動を通じて社会に還元しています。

### 1. 歴博フォーラム・講演会の開催

研究成果を広く一般に公開するための「歴博フォーラム」と「歴博講演会」を開催しています。



歴博探検 調査室 風景

### 2. 子ども向け教育普及事業の実施

歴博の展示や研究活動を親子向けに分かりやすく解説したり、バックヤードの見学を主とした「歴博探検」やクイズを解きながら展示をめぐる「親子クイズ」など、子ども向けの教育普及活動を実施しています。

### 3. 専門職員研修事業などの実施

平成5年度から、歴史民俗系資料館の活動の充実に資するため、文化庁と共催で全国の歴史民俗系博物館・資料館の専門職員を対象に「歴史民俗資料館等専門職員研修会」を開催しています。

### 4. 歴博の紹介

全国生涯学習フェスティバルなどにおいて歴博紹介を積極的に実施しています。

### 5. 研究交流

海外の大学・研究機関・博物館と学術交流をめざし、平成19年度までに7件の交流協定を締結しています。



「佐倉連隊にみる戦争の時代」展に伴う歴博探検風景

また、国際研究集会を開催するとともに、外国の研究者や国内の大学などの研究者に研究の機会を提供するため、外国人研究員、外来研究員を受け入れています。

国内の活動としては、各地の研究者との研究交流を深めるための研究集会を開催しています。

## 大学院教育

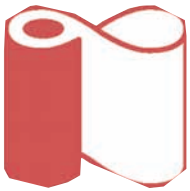
### 大学院教育

平成11年度から総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻が置かれています。個別授業・基礎演習・集中講義の3つの形態の授業を行い、博士論文の作成指導と研究者としての能力の育成を図り、歴史学・民俗学・考古学・分析科学などの多分野にわたる研究者による複数教員の指導と基盤機関に所蔵されている実物資料の活用などを通し、広い視野を持った創造性豊かな研究者の育成を行っています(平成20年5月1日現在、在学生31名)。

### 特別共同利用研究員

大学院教育の協力の一環として、特別共同利用研究員制度を平成9年度から設けており、大学の要請に応じ歴史学・考古学・民俗学およびそれに関連する分野を専攻する大学院学生を受け入れ、必要な指導を行っています(平成19年度実績4名)。





国文学研究資料館 本館正面入口

## 概要

国文学研究資料館は、文献資料の調査研究、収集、整理および保存等を目的として、昭和47年(1972)に設置されました。以来、大学等の研究者の協力を得ながら、国内外に所在する日本文学およびその周辺の資料について調査し、マイクロフィルム等による収集を行い、保存に努めています。また、集積した資料や情報は、閲覧、複写サービス、インターネット等によるサービスを通じ、広く研究者および一般利用者に提供しています。

同時に、調査、収集した膨大な書誌情報を活用し、文学研究を基盤、総合および応用にわたって体系的、総合的に展開させるべく基幹研究、プロジェクト研究等を企画し、推進しています。それらは、大学等の研究者と連携し、多面的な共同研究として実施しています。また、海外の研究機関、研究者との交流にも積極的に取り組んでいます。その他、展示、講演会、ワークショップ等を通じて、日本文学およびその周辺の文化資源の活用を図り、社会との連携を図っています。

また、平成20年3月に品川区から立川市緑町に移転しました。今後、拡充した閲覧室や展示室等を活用して、共同利用機関としてより充実した活動を展開してまいります。

## 研究

国文学研究資料館では4つの研究系でプロジェクト研究を共同研究として行うほか、平成18年度から新たに全館的に取り組む基幹研究を開始しました。

### 基幹研究

創立以来当館が培ってきた、日本文学に関する原本資料の調査収集の成果を基盤として継承し、体系的な調査収集計画に基づいて行う総合研究で、以下の4研究課題を実施しています。

- ・ 王朝文学の流布と継承
- ・ 19世紀における出版と流通
- ・ 「源氏物語」再生のための原典資料研究

### 文学資源研究系

書籍形態の文学資源に関し、原本調査に基づいた総合研究を行います。書誌情報の集積と分析、書籍の形態の内容の考究、目録の作成、解題の作成などの基礎研究を通じ、文学資源が有する日本文学としての資料的特質を明らかにします。

- ・ 日本古典籍特定コレクションの目録化の研究
- ・ 和刻本(五山版・近世初期刊本)の研究
- ・ 学芸書としての中世類題集の研究——『夫木和歌抄』を中心に
- ・ 近世後期小説の様式的把握のための基礎研究

### 文学形成研究系

日本文学の個々の作品や作品群を対象に、作品形成という観点を軸として、本文の調査によって作品の成立、表現、享受等に至るさまざまな問題を総合的に研究し、日本文学の作品的特質を明らかにします。

- ・ 平安文学における場面生成研究——物語の生成と受容
- ・ 古典形成の基盤としての中世資料の研究
- ・ 近世文芸の表現技法 見立て・やつしの総合研究

### 複合領域研究系

文学作品群の多角的な分析を行うことによって学際的

な研究領域の開拓を目指すとともに、そうした研究を一体となって支える、文化資源情報の電子化および共有化に関する研究を行います。

- ・開化期戯作の社会史研究
- ・日本文学関連電子資料の構成・利用の研究

### アーカイブズ研究系

古文書から電子記録まで多様に存在するアーカイブズ資源に関する総合的研究を行い、日本のアーカイブズの特質の解明およびその保存、活用のための技法・理論を確立することを目的とし、さらにアーカイブズ情報を社会化するためのシステム研究を推進します。

- ・経営と文化に関するアーカイブズ研究
- ・東アジアを中心としたアーカイブズ資源研究
- ・アーカイブズ情報の資源化とネットワークの研究

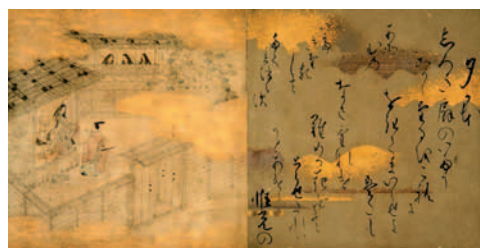
このほか、公募による共同研究「近世風俗文化の形成——忍頂寺務草稿および旧蔵書とその周辺」「川瀬一馬氏旧蔵古典籍写真資料の調査と研究」を実施します。



明治合戦 高橋阿伝夜刃譚 初編 から



「擬五行尽之内 生田の森の貝金 梶原源太」から



『白描淡彩源氏物語絵』



『住吉物語』

## 共同利用

### 資料閲覧サービス

収集し整理した資料は閲覧室において来館利用者への閲覧・複写サービス等を行っており、図書館間の相互利用制度により、遠隔地の利用者へも資料の複写等のサービスを行っています。

### 公開データベース等

「国文学論文目録データベース」「日本古典籍総合目録」を始め、計26のデータベースによる学術情報の提供を行っています。さらに、「リプリント日本近代文学」のオンデマンド出版も平成17年度から開始しました。

### 展示

#### 移転記念特別展

- ・よみがえる時——春日懐紙を中心に

平成20年5月26日(月)～6月20日(金)

当館の立川移転に伴い、「古典を未来に継承する国文研」の紹介を兼ねて、館蔵の貴重書を展示するものです。学

術的にも価値の高い名品の数々について、最新の研究成果を盛り込みつつ、限られた愛好家や研究者向けになりがちであった従来の展示を、地域住民にも広く開かれたものとして、一般市民にも親しみやすい作品を展示します。



移転記念特別展示「よみがえる時」ポスター

#### 源氏物語千年紀記念特別展

・このわりに若紫やさぶらふ？——源氏物語画帖の古写本の世界

平成20年10月4日(土)～10月31日(金)

平成20年(2008)は、「源氏の物語」という名が『紫式部日記』に記された寛弘5年(1008)から数え、ちょうど1000年目に当たります。当館では、これまでの研究成果を踏まえつつ、『源氏物語』という世界的古典がどのように形を変えて読み継がれて来たのかを、絵画資料や古写本を通して、わかりやすく紹介します。

#### 通常展示

・新収資料展

平成20年12月

・和書のさまざま——書誌学入門

平成21年3月～4月

## 社会連携

### 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しており、平成20年度

は10月11日(土) 12日(日)に「物語の過去と未来」というテーマで開催します。



国際日本文学研究集会

### 日本古典籍講習会

国内外で日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を開催します。講師は、当館教員および司書並びに国立国会図書館司書等で、平成20年度は、平成21年1月に当館および国立国会図書館で開催します。

### アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員(いわゆるアーキビスト)の研修、養成のため、長期コースと短期コースを開催します。講師は当館教員等で、長期コースは7月～9月の間の計8週間、国文学研究資料館で開催し、平成20年度の短期コースは滋賀大学経済学部(彦根市)において11月17日(月)～22日(土)に開催を予定しています。



アーカイブズ・カレッジ



## 子ども見学デー

文部科学省の働きかけにより実施している「子ども見学デー」の一環として、平成20年度は8月27日(水)に開催を予定しています。



子ども見学デー

## シンポジウム

### 国際シンポジウム

・江戸の絵本・画譜——イメージとテキスト

平成20年6月28日(土)~29日(日)

「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」の研究発表の一環として国際シンポジウムを開催します。

「日本古典籍特定コレクションの目録化の研究」は、当館研究プロジェクトの一つで、共同研究としての性格を重視し、当館の文学資源研究系の教員を中心に、他機関から文学、美術各分野を専門とする共同研究者の参加を得て実施しているものです。

### 特別講演

・「日本の絵本——普遍的な魅力、特質と世界美術におけるその位置づけについて」

講演：ロジャー・キース（米国ブラウン大学東アジア研究所客員研究員）

司会：ロバート・キャンベル（東京大学）

### 研究発表

・「月岡雪鼎と絵本——西川祐信からの継承と離脱」 山本ゆかり（国際浮世絵学会）

・「江嶋其磧作・西川祐信画『女中風俗玉鏡』の初版と覆刻版をめぐって」 倉員正江（日本大学）

・「白楽天来日の伝説とその変容——鈴木春信の『見立白

楽天』を中心に」張小綱（金城学院大学）

### パネルディスカッション

・絵画・画譜 そのメカニズムを読み解く

コーディネーター：鈴木淳（国文学研究資料館・副館長）

パネリスト：浅野秀剛（大和文華館）

岩切友里子（国際浮世絵学会）

佐藤悟（実践女子大学）

クリストフ・マルケ（フランス国立東洋言語文化研究学院）



シンポジウム

## 大学院教育

国文学研究資料館には、総合研究大学院大学の文化科学研究科(日本文学研究専攻)が設置されています。総合研究大学院大学は、大学共同利用機関等の人材と研究環境を基盤として、教育・研究を行っています。日本文学研究専攻では、従来の日本文学研究を、文化科学の視点から総合的に捉え直す立場に立って、多面的な指導をしています。

また、特別共同利用研究員制度により、大学の要請に応じ大学院生を受け入れ、研究指導に協力しています。



国際日本文化研究センター外観

## 概要

国際日本文化研究センター(日文研)は、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究と世界の日本研究者に対する研究協力・支援を行うことを目的として、昭和62年(1987)に設置されました。以来、日本文化の独自性の研究のみならず、諸外国との文化比較や文化交流の視点をも重視し、日本文化に関する多様な研究を、国内外から参加するさまざまな専門領域の共同研究員による分野横断的な研究を展開しています。

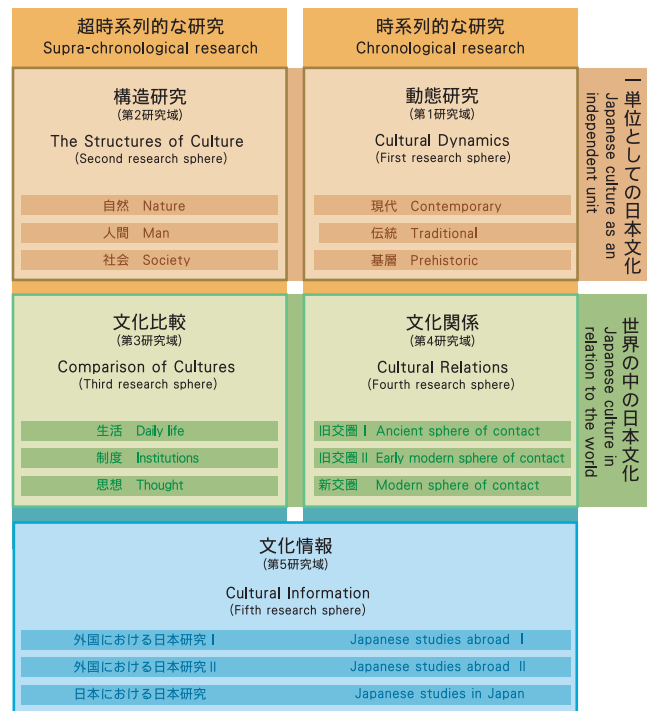
研究部門制を採用していない日文研では、共同研究を研究域・研究軸という枠組みのもとに位置づけ、特定の分野に偏らない、バランスのとれた共同研究を推進しています。その研究成果は、和文・英文による図書・学術雑誌、講演会、シンポジウムなどさまざまな形で、国内のみならず広く海外に提供しています。

研究協力としては、世界各地の日本文化の研究者・研究機関に、研究情報を発信するとともに、地域の実情に応じて日文研のスタッフを派遣して研究会を開催するなど、多面的な研究協力活動を行っています。

また、総合研究大学院大学文化科学研究科国際日本研究専攻・博士後期課程では、次代の日本研究者養成を行っています。ここでは、留学生も受け入れています。

## 研究

日文研における研究活動は、研究域・研究軸という枠組みのもとに行われています。この枠組みの原則は、日本文化の全体像を把握するための視座として、まず研究域を設け、次にそれらを分節して研究軸を設けたものであり、研究軸は研究域の示す視座の中で、いくつかの方向を特定するものです。



## 共同研究

日文研がもっとも力を入れているのは、共同研究方式の日本文化の研究です。日本文化を研究するためには、関係する個別専門分野ごとの成果が着実に積み重ねられなければなりません。併せて専門分野の枠組みを越えて、研究者が相互に知見を高めあう場が必要になります。こうした共同研究の場は、総体として日本文化理解の促進に大きな役割を果たすものと期待されます。また、共同研究では、日本と異なる知的伝統に立つ海外の研究者との交流をも重視しています。さらに、国際化時代といわれる今日、日本文化研究の多角的な国際化を図ることで、

時代の要請に応えようとするものです。

このように、日文研における共同研究は、単なる研究成果の交流にとどまるものではなく、専門分野および知的伝統を異にする研究者たちが研究過程を共有し合うことによって生みだされる創造性に基づく成果をめざしています。

平成20年度は、15の課題による共同研究が行われています。



共同研究会

## 研究協力

日文研では、日本文化に関する国際的・学際的な総合研究を行い、世界に開かれた国際的なセンターとしての責務を果たすため、諸外国から外国人研究者を受け入れています(平成20年5月31日現在、累計世界40か国、428名)。これら外国人研究者と日文研の教員や国内研究員との親密な学問的交流は、世界の日本研究促進の基盤となっています。

また日文研では、日本研究を行っている研究者を対象に研究協力活動を展開しています。この活動は、個々の研究者の研究交流を目的とする国際研究協力と、日文研が蓄積してきた研究情報の提供に大別することができます。

具体的には、研究会形式の研究交流を行う場の提供や、個人的な研究上の協力として研究相談などを実施しています。

国内開催の研究会は以下のとおりです。

・「日文研フォーラム」は、来日中の外国人研究者による

研究発表と交流の場の提供を目的に、毎月開催しています。テーマは日本文化に関連したものを1回で完結する形をとっています。



日文研フォーラム

・「セミナー」「レクチャー」「シンポジウム」は、日文研の教員が専門領域のテーマを設定して開催するものと、来日中の外国人研究者と日文研の教員が共同・協力して学際的なテーマを設定して開催し研究者との交流をも目的としているセミナーです。

・Nichibunken Evening Seminar は、外国人研究者の研究発表と国際交流を兼ねた英語によるセミナーです。

・「世界の日本研究シンポジウム」は、海外研究交流室が中心となり、来日中の外国人研究者による研究発表と交流の場の提供を目的に、年1回開催しています。

また海外においても、以下のとおり研究会を開催しています。

## 海外シンポジウム

平成7年度から海外においても研究活動・研究協力活動を行うため、年1回海外シンポジウムを実施しています。

平成19年度は、ロシア国立人文学大学・モスクワ国立大学アジア・アフリカ諸国大学(ロシア)との共催で「日本文化の解釈:ロシアと日本からの視点」を実施しました。

## 海外における日本研究会

平成11年度から、海外研究交流室を中心に教員を年数回海外に派遣し、訪問した地域の日本研究者と協力して、現地の研究動向に即したテーマで小規模な研究会を開催



しています。併せて、研究相談等支援業務を行っています。このことにより、日文研の設置目的である国際研究協力活動をより積極的かつ効果的に行うものです。同時に優秀な若手研究者の発掘にもつながり、また、海外の日本研究の生の情報を得る貴重な機会になっています。

平成19年度は、サンパウロ大学、国際交流基金サンパウロ日本文化センターおよびリオデジャネイロ州立大学(ブラジル)にて開催しました。

### 海外研究交流シンポジウム

平成18年度から、海外の日本研究者とのネットワークをさらに強化し、恒常的でより親密な研究者交流をめざすため、海外研究交流室が中心となり海外研究交流シンポジウムを実施しています。

平成19年度は華東師範大学(中国)において、またアルザス・ヨーロッパ日本学研究所との共催でコルマル(フランス)においてシンポジウムを開催しました。

### 国際研究集会

日本の文化、社会に対する世界各国の関心はますます高まり、それとともに、研究者の問題意識、研究方法の多様化もきわめて著しいものがあります。このような状況に対応するため、主として日文研での共同研究をテーマに、昭和63年から国際研究集会を開催し、日本研究発展のための国際的な討論の場を設けています。

また、各研究集会の期間中には、普及活動の一環として公開講演会を実施しています。



国際研究集会

## 共同利用

### 図書館

中央に東屋風のサービスカウンターを配置した円形図書館は、3層の吹き抜け構造になっており、落ち着いた利用空間を提供しています。ここは、日本研究に必要な各種資料を幅広く収集し、研究者の利用に供するとともに、さまざまな情報提供に努めています。平成7年に増設した資料館は、固定書架・電動集密書架のほか、貴重図書室、地図資料室、研究用個室、マイクロ資料室等が配置されています。また、自由接架方式を採用していますので、利用者は41万冊の図書を自由に手に取って閲覧することができます。

なお、個々の資料の配架場所・貸出状況は各フロアー配置の検索用端末機で調べることができます。



図書室

### 資料の収集

日文研における資料収集方針は、外国語で書かれた日本研究図書および訳書の網羅的収集、日本研究に必要な基本図書・雑誌の収集、日本研究に関する文献目録等の網羅的収集、その他、幕末明治期のガラス写真・色彩写真、古地図、ビデオ・CDなどの映像音響資料、科学史関連資料、医学史関連資料、日中関係資料等も積極的に収集しております。

## 資料の利用

教職員・学生等は所蔵する資料を自由に利用することができます。また、外部の方も学術研究・調査を目的に事前申請のうえ閲覧することができます。これらは、インターネット上で検索でき、図書館間相互利用制度により文献複写や現物貸借サービスを申し込むことができます。

## データベース等の公開

日文研が収集した日本研究資料、日文研教員の研究成果をはじめ、日文研以外の機関所有の日本研究資料等のデータベース化を推進し、41本のデータベースをWebで公開しています。また、検索エンジンも備えていることから、世界中の幅広い日本研究の推進に役立てられています。

Webでの公開は資料のデータベースばかりでなく、学術講演会等のインターネット放送を整備しており、平成9年度以降の134本分の講演記録をインターネット放送として公開しています。講演会当日はリアルタイムで視聴可能です。

## 社会連携

「社会に開かれた研究機関」として、研究活動・研究協力活動により得られた成果を広く社会に還元するため、以下のような普及活動を行っています。

### 1. 学術講演会

年3～4回、日文研講堂において、日文研の教員・外国人研究員による研究成果の発表と日本研究の普及を目的として学術講演会を開催しています。

### 2. 東京講演会

毎年6月に、東京において日本研究の普及を目的に、総合テーマ「日本文化を考える」と題して日文研の教員・外国人研究員による講演会を開催しています。

### 3. 公開講演会

日文研で開催される国際研究集会・国際シンポジウムの期間中に、普及活動・社会貢献の一環として公開講演会を開催しています。

### 4. 一般公開

毎年11月頃に、教員の案内による図書館・セミナー室・教員研究室・共同研究室等を公開し日頃の活動状況を紹介したり、日文研講堂において日文研の教員・外国人研究員による講演会を開催しています。当日は展示コーナーを設けて研究資料データベースの紹介や日文研所蔵の貴重図書・写真、前年度の教員の出版物等を展示しています。



学術講演会

## 大学院教育

大学共同利用機関を基盤機関とする国立大学法人総合研究大学院大学の文化科学研究科(博士後期課程)の中に本センターを基盤とする「国際日本研究専攻」が設置されています。同専攻には国外から留学生を含む院生が学んでおり、国際的視野から学際的、総合的な日本研究を推進する教育と研究が行われています。



# 総合地球環境学研究所

RESEARCH INSTITUTE FOR HUMANITY AND NATURE



総合地球環境学研究所全景

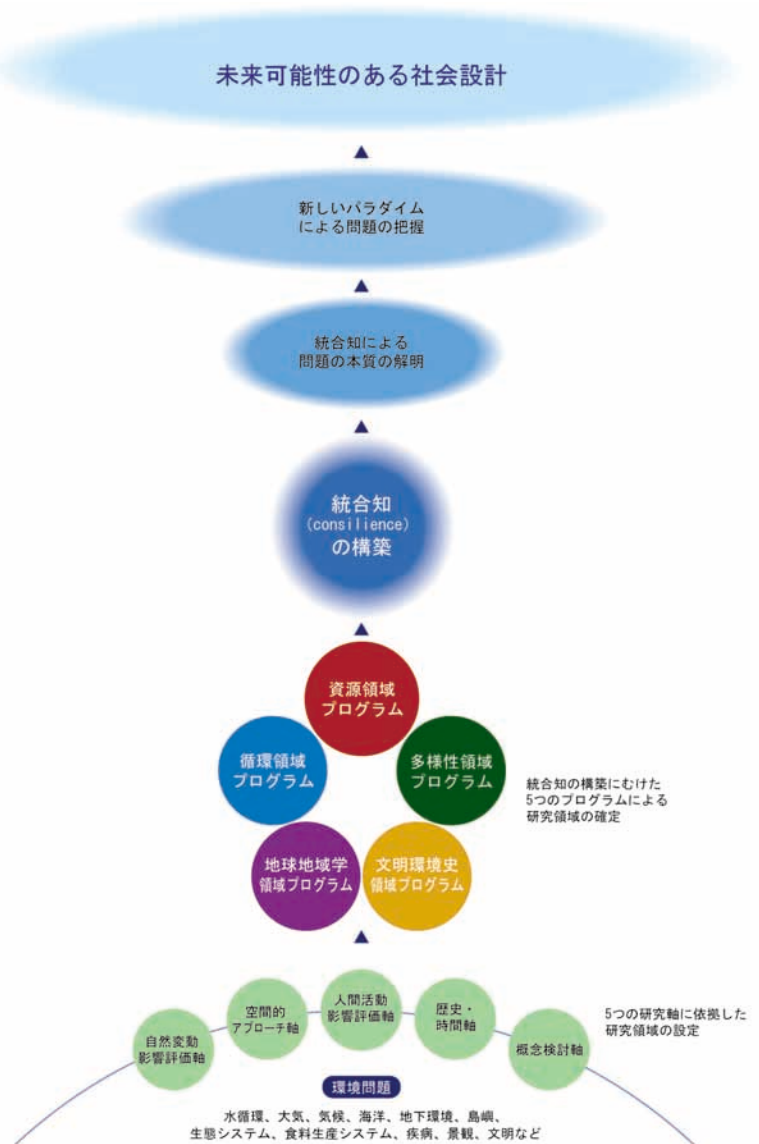
## 概要

平成13年(2001)に創設された総合地球環境学研究所(地球研)は、「地球環境問題の根源は、人間文化の問題である」という基本認識のもと、「地球環境問題に関する総合的研究」を行うことを目的としています。地球環境問題の解決には、従来の科学技術的方法だけでは限界があります。必要なのは、自然科学系と人文社会科学系の研究者の協働であり、問題を個別ではなく、全体、総体として把握しようという姿勢です。地球研の目指す「総合地球環境学」は、別の言い方をすれば、地球環境問題に関する統合知 consilience を構築し、人間科学 humanics として人間の生き方そのものを問う、ということになります。

そのために地球研では、環境問題の本質把握に不可欠な「人間と自然との相互作用環」の解明や、問題の克服につながる「未来可能性」を実現する道筋の探究などの研究に取り組んでいます。

地球環境学を構築するための研究枠組みとして、循環、多様性、資源、文明環境史、地球地域学の5つの領域プログラムを設定しました。各研究プロジェクトはこの5つの領域プログラムのいずれかに属して、これらの枠組みにおける位置づけを常に明確にしながら、課題に取り組んでいます。

また、研究プロジェクトをより円滑に、より効率的に推進していくために、これまであった研究推進センターを研究推進戦略センター(戦略センター)として改組しました。戦略センターは、地球研の研究プロジェクトをプログラムに収斂させながら、得られた成果を集積・発信し、新たな研究を創出するための戦略を策定する重要な機能を担っています。



統合知の構築(概念図)



## 研究

地球研における研究は、研究プロジェクト方式と研究者任期制の2つの原則で進められています。研究部のスタッフは何れかのプロジェクトに属し、一部はプロジェクトリーダーとなって、国内外の研究者と共同研究を進めています。

研究プロジェクト方式は、立ち上げから終了後に至る各段階で、計画の妥当性、実行可能性、成果の意義について評価を受けながら研究を展開することを基本としています。

まず、所内外から公募によって採択されたインキュベーション研究 (IS) を実施し、プロジェクトのシーズが組み立てられます。半年から1年の後に、研究プロジェクトを企画する段階に至ったと判断されたものは、1年間予備研究 (FS) を行います。その成果は、所内での討議・審査を踏まえて「研究プロジェクト評価委員会 (評価委員会)」で評価され、適切と認められたものは運営会議の承認を経て本研究 (FR) に進むことができます。本研究は、1年間の準備期間のプレリサーチ (PR) を経て、3~5年の研究を実施することになります。

評価委員会は、外国人研究者を含めて研究所外の研究者だけから構成されます。各研究プロジェクトは、先に述べたFRへの移行時だけでなく、本研究2年目終了時、終了1年前、終了時と、評価委員会の厳正な評価を何度も受けることになっています。



研究プロジェクト発表会

## 共同利用

### 1. 頭脳の共同利用

地球研では平成19年度までにFR8本が終了し、その成果は様々な形で発信され、活用が検討されています。平成19年度は、14本のFRと3本のPRにおいて、総勢1,200名を超える国内外の研究者が共同研究に参画しました。地球研の研究プロジェクトが、「広い意味での人間文化としての地球環境問題を考える」という基本方針に沿って進められていることから、研究プロジェクトには自然科学系から人文社会科学系までの非常に広い学問分野から研究者が参加しています。また、参加者の所属も、国公立大学や公的機関の研究所だけでなく民間研究機関など様々です。

### 2. 調査研究フィールドの共同利用

地球研の研究プロジェクトが調査対象地としている調査研究フィールドは、国内はもとよりアジアを中心にした各地に展開しています。このほとんどのフィールドにおいて、現地の研究者や実務者と密接に連携して研究プロジェクトの調査研究を進めています。

海外での共同研究は、覚書や研究協力協定を結び、共同研究の推進、研究資料の共有化、人的交流などを進めており、その相手先はほぼ世界の全域にわたっています。また、外国人研究者を研究プロジェクトの中核的メンバーとして受け入れて共同研究を行っています。さらに、地球研では、こうした地域研究の経験とネットワークを活かし、国内の研究機関における地域研究展開の連携と情報共有を組織化することを進めています。

### 3. 高精度分析機器の共同利用

地球環境問題の本質を理解するために有効な最新手法として、安定同位体分析 (様々な物質の産地や年代などの同定)、DNA分析 (種や品種の詳細な決定など) があります。地球研では高い精度を持つ最新鋭の設備を導入して、これらの分析手法を実際に活用しながら、さらに新たな分析法・活用法を開発し、広く研究者の利用に供して共同利用を促進しています。



クリーンルーム

## 社会連携

### 1. 地球研フォーラム

地球研の理念や研究成果に基づいて、地球環境問題に係る幅広い問題提起やディスカッションを行うことを目的に、シンポジウム形式の「地球研フォーラム」を年1回開催しています。平成19年度は「地球環境問題としての『食』」をテーマに取り上げました。平成20年度は次のとおり開催します。

#### 第7回地球研フォーラム

「もうひとつの地球環境問題——会うことのない人たちとともに」

開催日：平成20年7月5日(土)

場所：国立京都国際会館



地球研フォーラム

### 2. 地球研市民セミナー

地球研の研究活動などをわかりやすく紹介するため、地球研スタッフや所外研究者による市民を対象にした公開講演会を定期的で開催しています。平成19年度末までに計24回開催しており、平成20年度はさらに7回程度開催する予定です。



地球研市民セミナー

### 3. 地球研地域セミナー

地球研のある京都市から全国各地に出かけ、地元自治体などとの共催で公開講演会を年1回開催しており、地元の研究者や市民の参加のもと、地域に固有の自然と文化の問題について活発な議論を行っています。平成19年度は静岡県伊東市で「伊豆の、花と海——伊東から考える地球環境」をテーマにパネル形式によるセミナーを行いました。

### 4. 出版物

ニュースレター『地球研ニュース』  
(Humanity & Nature Newsletter)

地球研とは何か、どのような活動を行っているかなどの最新情報を、研究者コミュニティや社会に向けて広く発信しているもので、A4版でオール・カラーの読みやすい内容となっています(年6回(隔月)の発行予定)。

地球研叢書

地球研の研究内容や成果の意味を学問的にわかりやすく紹介する出版物で、広く一般書店にて販売されています。



地球研ニュース No.12



地球研ニュース No.13



地球研叢書  
『黄河断流』



地球研叢書  
『食卓から地球環境がみえる』



地球研叢書  
『地球の処方箋』



地球研叢書  
『地球温暖化と農業』

## 大学院教育

地球研の教員は、人間文化研究機構に属する他の4機関と異なり、総合研究大学院大学の教員とはなっていません。しかし、今後の大学院教育展開へ向けて、さらに地球環境学を担う若手研究者を養成する観点から、次の2つの事業を推進しています。

1つ目は、国立大学法人から大学院学生を特別共同利用研究員として受け入れ、研究指導を行っています。特に、環境関連の分析科学や人類学、植物学、生態学、地理学、農学など、地球環境学に密接に関連する分野での研究をめざす大学院学生を積極的に受け入れていきます。

2つ目は、博士課程修了後の若手研究者を研究プロジェクトの研究員として積極的に採用し、研究プロジェクトの研究活動に加えて、企画・運営や多分野の研究者との交流へも参画させることにより、若手研究者の研究活動の推進と育成を行っています。



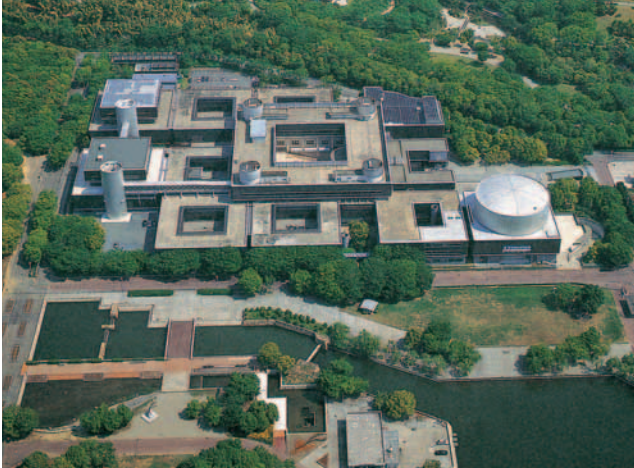
地球研「プロジェクト研究室」





# 国立民族学博物館

NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY



国立民族学博物館全景



国立民族学博物館開館30周年記念式典

## 概要

国立民族学博物館(民博)は、文化人類学・民族学に関する調査・研究を行い、その成果を通して、世界の諸民族の社会と文化に関する情報を人びとに提供し、諸民族についての認識と理解を深めることを目的としています。昭和49年に大学共同利用機関(法律第81号)として設置され、昭和52年には博物館を開館しました。

平成19年に開館30周年を迎え、「地の先へ。知の奥へ。」のスローガンのもと記念式典(11月14日)をはじめとして、講演会、シンポジウム、展示、クイズなど多岐にわたる形式や内容でさまざまな記念事業が行われました。このうち、「みんなくウィークエンド・サロン 研究者と話そう」は、来館者と教員が、展示場内で身近に語り合いながら、民博の研究を知っていただく試みで、計62回開かれまして、平成20年度も引き続き実施しており、博物館をもった研究機関として、その特徴を一層生かしています。

## 研究

### 機関研究

個人で行うのが難しい規模の大きな課題、周辺諸分野にまたがる学際的な課題、広く人文社会科学に共通する

重要な基礎的課題について、本館の組織をあげて取り組む研究です。文化人類学・民族学の研究センターとしての民博の特性を活かし、学術的、社会的要請にこたえるために、分野横断的で先進的な課題を取り上げます。

現在、「社会と文化の多元性」「人類学的歴史認識」「文化人類学の社会的活用」「新しい人類科学の創造」の4領域の下に研究プロジェクトが組織されています。これらは、文化人類学・民族学および関係諸分野の発展に寄与し、人文社会科学の再編や新しい分野の創出に貢献することが期待されます。

### 共同研究

文化人類学・民族学および関連分野の特定のテーマについて、館内外の専門家が共同で行う研究です。館内外から研究課題を募り、館外委員を含めた共同利用委員会の審査で決定します。平成16年度から、「文化人類学・民族学および関連諸分野を含む幅広い研究」「本館の所蔵する資料に関する研究」「本館の機関研究に関連する研究」の3つのカテゴリーを設定しています。

平成19年度実施の課題数47件のうち、客員教員・特別客員教員を代表者とするものが11件、公募による館外の研究者を代表者とするものは13件です。共同研究員総数は、国立大学206名、公立大学39名、私立大学223名、公的機関44名、民間機関など69名で、計581名です。

## 各個研究

研究者個人が自由な発想に基づいて企画、立案し、実施する研究であり、人文社会科学の研究機関である民博の研究活動の重要な柱です。

## 研究組織

民族社会研究部、民族文化研究部、先端人類科学研究部の3研究部と2センターがあります。

研究戦略センターは、文化人類学・民族学と周辺諸分野の最新の研究動向をふまえ、民博の研究活動の戦略を策定します。

文化資源研究センターは、文化資源の体系的な管理と情報化、およびその共同利用や社会還元に向けて基礎研究や開発研究を行うとともに、事業推進の企画・調整を目的としています。

## 研究成果の公開

### 出版活動

民博の専任教員、客員教員・特別客員教員など館内外の研究者が、各個研究、共同研究、国際シンポジウム、科学研究費補助金などによる研究の成果を広く社会に公開するために、『国立民族学博物館研究報告』『Senri Ethnological Studies (SES)』『Senri Ethnological Reports (SER)』『国立民族学博物館研究年報』を出版しています。国内外の出版社からの刊行も制度的に奨励しており、平成19年度は3点が出版されました。

### 研究成果公開プログラム

研究成果を効果的に公開し社会還元を図る目的で実施しています。平成19年度は、開館30周年記念国際シンポジウム「文化資源という思想 ― 21世紀の知、文化、社会」、特別展に関連した国際シンポジウム「オセアニアの偉大なる航海者たち」、同じく「西南中国少数民族の文化資源の“いま”」、研究フォーラム「2004年インド洋地震津波災害被災地復興の現状と課題」、ワークショップ「青年海外協力隊と文化人類学（日本文化人類学会と共催）」など、あわせて11件の研究集会を実施しました。

## 共同利用

文化人類学・民族学を核とする諸分野の資料や情報を集積・整備して国内外研究者の共同利用に資するとともに、展示や各種事業などを通じて研究成果の社会還元を行っています。

民博所蔵の諸資料は、館内外における諸分野の研究や大学教育への活用、および他の博物館への貸し付けなどを通して、共同利用に供しています。

標本資料：257,860点、映像音響資料：69,368点、文献図書資料：図書605,241冊/雑誌16,238種、HRAF(Human Relations Area Files): 地域(民族集団)ファイル385ファイル/原典(テキスト)7,141冊。

平成18年度から「民族学資料共同利用窓口」を設置し、所蔵資料の利用に関する問い合わせに対応しています。  
URL <http://www.minpaku.ac.jp/kyodomado.html>

### 1. みんなく図書室

文献図書資料等の情報提供だけでなく、情報公開に積極的に取り組んでいます。国立情報学研究所 NACSIS CAT への遡及入力や、みんなく図書室所蔵貴重図書展示「貴重書に見るアイヌの文化」を開催し、通常は来館者の目に触れることのない貴重な研究資料を公開しました。

また、日本の研究者たちが調査等で生成した各種資料を整理・データベース化し、民族学研究アーカイブズ Home Page を公開しました。これにより、菊沢季生・篠田統・土方久功・馬淵東一の各アーカイブ・リストなどへのアクセスが可能となりました。

### 2. データベース

文化人類学・民族学に関わる膨大な情報を、インターネットで館内外の研究者に提供しています。民博所蔵の標本資料や映像・音響資料、文献・図書資料などの目録情報をはじめ、「ネパール写真データベース」「中西コレクションデータベース ― 世界の文字資料」「衣服・アクセサリデータベース」などがあります。いくつかは、画像情報を含んでいます。

### 3. 展示

#### 地域展示

世界をオセアニア、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ、それに日本を含むアジア各地域に分けて展示しています。

#### 通文化展示

特定の地域単位でなく、ジャンル別に世界の民族文化を通覧する展示で、現在は音楽と言語の展示があります。

#### 企画展示

本館展示場において、現代的な問題や最先端の研究課題などについて、期間を限って開催します。平成19年度は開館30周年記念事業として、教員一人一人が各自の研究の現状を紹介した「世界を集める——研究者の選んだ民博コレクション」を開催しました。また、鹿児島大学と共同で「植物のビーズ：つくって、つないで」を開催しました。

平成20年度は、平成19年度に収集した「インド西部刺繍布コレクション」の展示などを予定しています。

#### 特別展示

特別展示館において、特定のテーマに関する最新の研究成果を総合的・体系的に紹介する大規模な展示です。平成19年度は、開館30周年記念特別展「聖地 巡礼——自分探しの旅へ」「オセアニア大航海展——ヴァカ マアナ、海の人類大移動」を開催しました。

平成20年度は、次の特別展が開催されます。

#### ・開館30周年記念特別展

「深奥的中國——少数民族の暮らしと工芸」

平成20年3月13日(木)～6月3日(火)

中国は56の民族から成る多民族国家です。少数民族のうち最大の人口(1,618万人)をもつチワン族を取り上げ、高床式住居の居住空間を再現し、日常の暮らしや年中行事などを展示し、その生活世界を紹介します。さらに西南中国の諸民族について、「装う」「創る」「楽しむ」の3つのコーナーに分けて、多彩な文化を展示しています。

#### ・「アジアとヨーロッパの肖像」

平成20年9月11日(木)～11月25日(火)

アジアとヨーロッパの人のびとが、自らをどのようにとらえ、お互いをどのように受け入れてきたのか。その認識の変遷を、多様な造形のなかにたどりまします。平成13年

に創設されたアジア・ヨーロッパ・ミュージアム・ネットワーク(ASEMUS)に参加する18か国の博物館・美術館によって共同で企画・立案した国際巡回展です。

その他にも、他の博物館、大学等との協力による巡回展示、共催展示を実施しています。



特別展示「深奥的中國——少数民族の暮らしと工芸」

## 社会連携

### 1. 学術講演会

文化人類学・民族学を通じた異文化理解と、本館の学術研究機関としての役割を理解してもらうために、先進的な研究活動の成果を社会に積極的に還元しています。

平成19年度は、開館30周年記念公開講演会「国際化時代の食文化」(H19.10 東京)、「新しいライフ・デザインを求めて」(H20.3 大阪)を実施しました。

### 2. 国際連携

フランス人間科学研究所(MSH)と平成16年から交流協定を結んでおり、平成19年5月には、パリにおいて日仏共同国際シンポジウム「思考の道具——『テキスト』とその社会的機能の比較研究」を開催しました。その他、ペルーの国立サン・マルコス大学、順益台湾原住民博物館、大韓民国国立民俗博物館とも協定に基づく交流を行っています。

国際協力機構(JICA) 集団研修「博物館学集中コース」は、世界各地の博物館専門家を対象として、博物館の運営に必要な実践的技術の研修を実施し、各国文化の振興に貢献できる人材を育成しています。毎年、約10名の研



修生を受け入れ、滋賀県立琵琶湖博物館と共同で4か月の研修を運営しています。また、日本学術振興会アジア・アフリカ学術基盤形成事業「アフリカにおける文化遺産の危機と継承——記憶の保存と歴史の創出」は、6か国の機関と協定を結んで国際的な調査や研究集会を実施しています。

### 3. 広報出版

『民博通信』『MINPAKU Anthropology Newsletter』『月刊みんぱく』などの定期刊行物、ならびに『国立民族学博物館展示ガイド』、特別展の展示図録や案内リーフレットなどの展示関連刊行物を通して、研究や博物館活動を広報しています。

### 4. みんぱくゼミナール

一般社会人および学生を対象に、研究部の教員等による最新の研究成果に関する講演を実施しています。平成19年度は、開館30周年記念事業として、11月を除く毎月第3土曜日に開催しました。

### 5. みんぱく映画会

文化人類学・民族学に関する貴重な映像資料を、教員の解説を交えて上映しています。

平成19年度は、開館30周年記念「映画で出会う華人たち」熊送り儀礼——iomante」など計9回開催しました。

### 6. 研究公演

世界の諸民族の音楽や芸能などを紹介し、文化人類学・民族学への理解を深めてもらうことを目的としています。

平成19年度は、開館30周年記念「ギニアからの熱い風(ハルマッタン)——今を生きるアフリカの伝統音楽と踊り」「東インドの伝統舞踊ゴティプア」など計4回の公演を行いました。

### 7. 学習キット「みんぱっく」

学校機関や各種社会教育施設を対象に「みんぱっく」を貸し出しています。「みんぱっく」は世界諸地域の衣装や楽器、道具や学用品などをスーツケースにパックした

もので、9種類18パックが用意されています。



研究公演「ギニアからの熱い風(ハルマッタン)——今を生きるアフリカの伝統音楽と踊り」

### 8. 「みんぱく e-news」

研究情報や各種事業のお知らせを、月1回程度電子メールで配信しています。

ホームページ <http://www.minpaku.ac.jp>

### 9. その他

「音楽の祭日 in みんぱく」を開催し、平成19年度は13のグループや個人によってさまざまな楽器による演奏がありました。また、小・中学校の授業での利用を促進するため「先生のためのガイダンス」を実施し、「子ども見学デー」「職場体験学習」等の教育プログラムに協力しています。

## 大学院教育

民博には総合研究大学院大学の文化科学研究科(地域文化学専攻、比較文化学専攻)が設置されています。両専攻(博士課程後期)では、独創的な文化人類学・民族学の研究、長期のフィールドワークで得られた資料に基づく学位論文の作成、および広い視野を持った人間性豊かな研究者の養成をめざしています。学生の受け入れを開始した平成元年以来、課程博士43名、論文博士20名を輩出しました。

また特別共同利用研究員の制度を通して、国公立大学の大学院生を受け入れ指導することで、他大学の大学院教育に協力しています。

# 資料

## 委員会一覧

### 経営協議会

金田 章裕	機構長
篠原 徹	理事
中尾 正義	理事
小林 敬治	理事
石上 英一	理事
平川 南	国立歴史民俗博物館長
伊井 春樹	国文学研究資料館長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
松園 万亀雄	国立民族学博物館長
岩男 壽美子	慶應義塾大学・名誉教授
大塚 和夫	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所長
大原 謙一郎	大原美術館・理事長
栄原 永遠男	大阪市立大学大学院文学研究科・教授
高村 直助	横浜市歴史博物館・館長
永井 多恵子	文教ジャーナリスト
平田 保雄	日経BP社・代表取締役社長
福原 義春	資生堂・名誉会長
藤井 宏昭	国際交流基金・顧問
古澤 巖	鳥取環境大学・学長

### 教育研究評議会

金田 章裕	機構長
篠原 徹	理事
中尾 正義	理事
平川 南	国立歴史民俗博物館長
伊井 春樹	国文学研究資料館長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
松園 万亀雄	国立民族学博物館長
小野 正敏	国立歴史民俗博物館・副館長
谷川 恵一	国文学研究資料館・複合領域研究系研究主幹
白幡 洋三郎	国際日本文化研究センター・研究調整主幹
佐藤 洋一郎	総合地球環境学研究所・プログラム主幹
關 雄二	国立民族学博物館・先端人類科学研究部長
青柳 正規	国立西洋美術館・館長
大塚 柳太郎	国立環境研究所・理事長
川北 稔	京都産業大学・教授
佐藤 宗諱	長浜バイオ大学・教授
須藤 健一	神戸大学大学院・教授
平野 由紀子	お茶の水女子大学大学院・教授
鷲田 清一	大阪大学・総長

### 人間文化研究総合推進検討委員会

金田 章裕	機構長
篠原 徹	理事
中尾 正義	理事
小林 敬治	理事
石上 英一	理事
安田 常雄	国立歴史民俗博物館・研究連携センター長
谷川 恵一	国文学研究資料館・複合領域研究系研究主幹
小松 和彦	国際日本文化研究センター・教授
渡邊 紹裕	総合地球環境学研究所・プログラム主幹
田村 克己	国立民族学博物館・副館長
川北 稔	京都産業大学・教授
五條堀 孝	国立遺伝学研究所・教授
齋藤 修	一橋大学・教授
佐倉 統	東京大学大学院・教授
佐野 みどり	学習院大学・教授
中島 尚正	産業技術総合研究所・理事
平川 新	東北大学・教授
宮崎 恒二	東京外国語大学・理事(副学長)

### 評価委員会

金田 章裕	機構長
篠原 徹	理事
中尾 正義	理事
小林 敬治	理事
大崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
秋道 智彌	総合地球環境学研究所・副所長
辻田 政昭	事務局長
常光 徹	国立歴史民俗博物館・副館長
武井 協三	国文学研究資料館・文学形成研究系研究主幹
稲賀 繁美	国際日本文化研究センター・教授
早坂 忠裕	総合地球環境学研究所・プログラム主幹
西尾 哲夫	国立民族学博物館・教授
岩男 壽美子	慶應義塾大学・名誉教授
川北 稔	京都産業大学・教授
外園 豊基	早稲田大学・教授
宮崎 恒二	東京外国語大学・理事(副学長)
鷲田 清一	大阪大学・総長

### 機構会議

金田 章裕	機構長
篠原 徹	理事
中尾 正義	理事
小林 敬治	理事
石上 英一	理事
平川 南	国立歴史民俗博物館長
伊井 春樹	国文学研究資料館長
猪木 武徳	国際日本文化研究センター所長
立本 成文	総合地球環境学研究所長
松園 万亀雄	国立民族学博物館長

### 企画連携室会議

篠原 徹	理事
常光 徹	国立歴史民俗博物館・副館長
鈴木 淳	国文学研究資料館・副館長
白幡 洋三郎	国際日本文化研究センター・研究調整主幹
秋道 智彌	総合地球環境学研究所・副所長
田村 克己	国立民族学博物館・副館長

### 連携研究委員会

篠原 徹	理事
田村 克己	国立民族学博物館・副館長
井原 今朝雄	国立歴史民俗博物館・教授
陳 捷	国文学研究資料館・准教授
細川 周平	国際日本文化研究センター・研究調整主幹
渡邊 紹裕	総合地球環境学研究所・プログラム主幹
岸上 伸啓	国立民族学博物館・教授
伊藤 亜人	琉球大学・教授
大塚 柳太郎	国立環境研究所・理事長
村井 章介	東京大学大学院・教授
ツバタナ・クリステワ	国際基督教大学・教授
李 成市	早稲田大学・教授

### 研究資源共有化事業委員会

石上 英一	理事
常光 徹	国立歴史民俗博物館・副館長
安達 文夫	国立歴史民俗博物館 情報資料研究系・教授
古瀬 蔵	国文学研究資料館 複合領域研究系・教授
関野 樹	総合地球環境学研究所 研究推進センター・准教授
山田 奨治	国際日本文化研究センター 研究部・准教授
山本 泰則	国立民族学博物館 文化資源研究センター・准教授

久保 正敏	国立民族学博物館 文化資源研究センター・教授
安永 尚志	国文学研究資料館 名誉教授
柴山 守	京都大学東南アジア研究所 地域研究ネットワーク部・教授
原 正一郎	京都大学地域研究統合情報センター・教授
辻田 政昭	事務局長

### 地域研究推進委員会

金田 章裕	機構長
小野 元之	日本学術振興会・理事長
佐藤 慎一	東京大学大学院・教授
佐藤 次高	早稲田大学・教授
斯波 義信	東洋文庫・特別顧問
田中 耕司	京都大学地域研究統合情報センター長
田村 和子	共同通信・客員論説委員
濱下 武志	龍谷大学・教授
平野 健一郎	地域研究推進センター長
山田 辰雄	慶應義塾大学・名誉教授
渡邊 幸治	日本国際交流センター・シニアフェロー
大崎 仁	人間文化研究機構長特別顧問
小林 敬治	理事
立本 成文	総合地球環境学研究所長
松園 万亀雄	国立民族学博物館長

= 議長・委員長



# 資料

## データ一覧

### 予算・決算

【平成20年度予算】

収入	14,323
運営費交付金	11,643
施設整備費補助金	2,070
自己収入	610
支出	14,323
教育研究経費	9,808
一般管理費	2,445
施設整備費	2,070

【平成19年度予算】

収入	14,991
運営費交付金	12,318
施設整備費補助金	2,430
自己収入	243
支出	14,991
教育研究経費	9,581
一般管理費	2,980
施設整備費	2,430

【平成19年度決算】

収入	15,165
運営費交付金	12,348
施設整備費補助金	2,430
自己収入	387
支出	14,857
教育研究経費	9,867
一般管理費	2,560
施設整備費	2,430

(単位:百万円)

### 職員数

(平成20年5月1日現在)

役員 7      館長・所長 5      研究教育教員 188      地域研究推進センター研究員 13      事務・技術職員 200

役員および職員(常勤)			外国人研究員	客員教員(国内)
機関名	種別	現員		
機構本部	役員	7		
	地域研究推進センター研究員	13		
	事務・技術職員	24		
	小計	44	0	1
国立歴史民俗博物館	館長	1		
	研究教育職員	43		
	事務・技術職員	41		
	小計	85	2	9
国文学研究資料館	館長	1		
	研究教育職員	32		
	事務・技術職員	33		
	小計	66	0	5
国際日本文化研究センター	所長	1		
	研究教育職員	25		
	事務・技術職員	36		
	小計	62	13	20
総合地球環境学研究所	所長	1		
	研究教育職員	30		
	事務・技術職員	24		
	小計	55	6	5
国立民族学博物館	館長	1		
	研究教育職員	58		
	事務・技術職員	42		
	小計	101	5	7
計	役員	7		
	館長・所長	5		
	研究教育職員	188		
	地域研究推進センター研究員	13		
	事務・技術職員	200		
	小計	413	26	47

(単位:人)

【非常勤研究員等】

(平成20年5月1日現在)

	国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
機関研究員	2	3	7	0	4	16
リサーチアシスタント	0	13	0	3	11	27
プロジェクト研究員	0	1	1	74	1	77

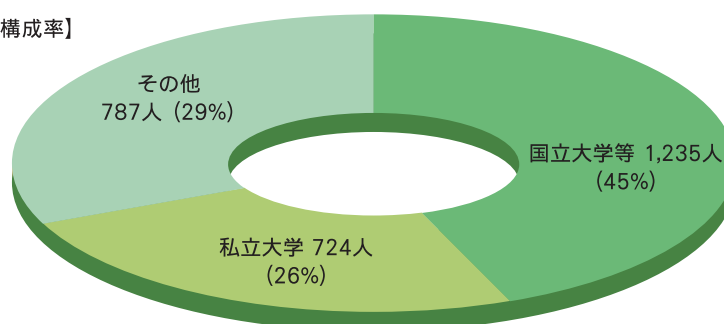
(単位:人)

共同研究の件数および共同研究員数 在籍 (平成19年度)

	共同研究 件数	総数	共同研究員の所属機関の内訳						
			国立大学等	公立大学	私立大学	公的機関	民間機関	外国機関	その他
国立歴史民俗博物館	47	372	109	8	126	19	2	26	82
国文学研究資料館	17	172	45	13	82	10	5	1	16
国際日本文化研究センター	15	328	98	21	149	21	11	0	28
総合地球環境学研究所	24	1,293	777	44	160	76	17	141	78
国立民族学博物館	47	581	206	39	223	44	58	0	11
計	150	2,746	1,235	125	740	170	93	168	215

(単位:件、人)

【共同研究者の構成率】



研究者の受け入れ・派遣 (平成19年度)

種別	国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
日本学術振興会特別研究員	2	3	1	3	6	15
日本学術振興会外国人特別研究員	0	0	3	1	1	5
その他外来研究員	13	4	16	6	54	93
外国人研究員招へい	4	1	31	17	12	65

(単位:人)

## 外部資金の受け入れ

### 【科学研究費補助金(申請件数)】

機関名	平成20年度	平成19年度	平成18年度
国立歴史民俗博物館	48 (25)	59 (38)	52 (36)
国文学研究資料館	44 (34)	47 (29)	50 (29)
国際日本文化研究センター	13 (6)	16 (13)	19 (10)
総合地球環境学研究所	59 (41)	57 (38)	61 (36)
国立民族学博物館	51 (30)	35 (20)	41 (26)
計	215 (136)	214 (138)	223 (137)

(単位:件 カッコ内は新規分で内数)

### 【民間との共同研究】

機関名	受け入れ	平成19年度	平成18年度	平成17年度
国立歴史民俗博物館	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国文学研究資料館	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国際日本文化研究センター	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
総合地球環境学研究所	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
国立民族学博物館	件数	0	0	0
	金額	0	0	0
計	件数	0	0	0
	金額	0	0	0

(単位:件、千円)

### 【科学研究費補助金(採択)】

機関名	採択件数・金額	平成19年度	平成18年度	平成17年度
国立歴史民俗博物館	件数	27(7)	32(14)	32(10)
	金額	157,300	151,690	154,500
国文学研究資料館	件数	26(8)	30(9)	36(14)
	金額	74,700	92,100	141,000
国際日本文化研究センター	件数	9(6)	11(3)	15(8)
	金額	43,600	115,200	107,000
総合地球環境学研究所	件数	30(13)	37(15)	33(14)
	金額	77,114	121,410	93,100
国立民族学博物館	件数	38(16)	25(10)	37(13)
	金額	134,000	102,200	131,100
計	件数	130(50)	135(51)	153(59)
	金額	486,714	582,600	626,700

(単位:件、千円 カッコ内は新規分で内数)

### 【寄附金】

機関名	受け入れ	平成19年度	平成18年度	平成17年度
国立歴史民俗博物館	件数	1	2	4
	金額	1,000	1,850	5,400
国文学研究資料館	件数	99	3	1
	金額	8,114	47,650	200
国際日本文化研究センター	件数	10	5	5
	金額	15,447	6,400	6,200
総合地球環境学研究所	件数	3	6	6
	金額	2,500	33,200	6,598
国立民族学博物館	件数	19	6	1
	金額	19,649	11,780	200
計	件数	132	22	17
	金額	46,710	100,880	18,598

(単位:件、千円)

### 【受託研究】

機関名	受け入れ	平成19年度	平成18年度	平成17年度
国立歴史民俗博物館	件数	1	1	1
	金額	1,272	1,455	637
国文学研究資料館	件数	1	0	0
	金額	910	0	0
国際日本文化研究センター	件数	2	5	2
	金額	6,854	35,183	30,495
総合地球環境学研究所	件数	8	9	11
	金額	55,004	84,682	85,018
国立民族学博物館	件数	3	3	6
	金額	16,300	16,400	22,184
計	件数	15	18	20
	金額	80,340	137,720	138,334

(単位:件、千円)

### 【その他の外部資金】

機関名	受け入れ	平成19年度	平成18年度	平成17年度
国立歴史民俗博物館	件数	0	1	0
	金額	0	2,501	0
国文学研究資料館	件数	0	1	3
	金額	0	960	2,635
国際日本文化研究センター	件数	0	0	1
	金額	0	0	5,018
総合地球環境学研究所	件数	0	0	1
	金額	0	0	3,500
国立民族学博物館	件数	1	1	1
	金額	8,000	8,000	7,000
計	件数	1	3	6
	金額	8,000	11,461	18,153

(単位:件、千円)

※間接経費含まず



## データベース一覧(平成19年度作成分)

### 【国立歴史民俗博物館】

分類	名称
データベースれきはく	館蔵染色用型紙
データベースれきはく	館蔵野村正治郎衣裳コレクション
データベースれきはく	館蔵縄文時代遺物
データベースれきはく	中世地方都市
データベースれきはく	館蔵装身具
データベースれきはく	東国板碑

### 【国文学研究資料館】

分類	名称
書誌・目録データベース	マイクロ/デジタル資料・和古書所蔵目録データベース
書誌・目録データベース	和刻本漢籍総合データベース
書誌・目録データベース	連歌・演能・雅楽データベース

### 【国際日本文化研究センター】

分類	名称
日文研所蔵 稀本・資料データベース	日本歴史研究センター旧蔵書目録
機関連携データベース	米国議会図書館承応版源氏物語
研究支援データベース	ラージマップ —高精細空中写真WebGIS

### 【国立民族学博物館】

分類	名称
所蔵資料画像データベース	ネパール写真データベース(英語版)
所蔵資料目録データベース	ビデオテークデータベース
所蔵資料画像データベース	「松尾三憲旧蔵絵葉書コレクション」データベース

## 大学院教育

### ●総合研究大学院大学

【学位授与状況】 (平成20年4月1日現在)

文化科学研究科	文学	14
	学術	5

(単位:人)

【在学生数】

(平成20年5月1日現在)

	研究科	専攻	入学定員	3年次(1年次)			4年次(2年次)			5年次(3年次)			計		
				女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生	女子	留学生		
														女子	留学生
後期3年博士課程	文化科学	地域文化学	3	2	2	1	3	2	1	11	6	0	16	10	2
		比較文化学	3	2	0	1	4	3	1	14	11	2	20	14	4
		国際日本研究	3	4	4	1	2	0	0	13	8	6	19	12	7
		日本歴史研究	3	5	2	1	5	3	1	21	6	0	31	11	2
		日本文学研究	3	1	0	1	3	0	1	9	4	1	13	4	3
		計	15	14	8	5	17	8	4	68	35	9	99	51	18

(単位:人)

### ●特別共同利用研究員

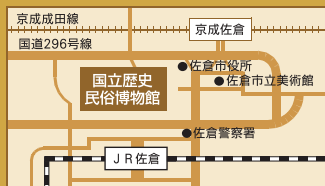
(平成20年5月1日現在)

国立歴史民俗博物館	国文学研究資料館	国際日本文化研究センター	総合地球環境学研究所	国立民族学博物館	計
10	5	3	0	14	32

(単位:人)

## 国立歴史民俗博物館

〒285-8502  
千葉県佐倉市城内町117  
TEL:043-486-0123 (代表)  
<http://www.rekihaku.ac.jp/>



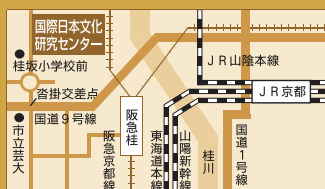
## 国文学研究資料館

〒190-0014  
東京都立川市緑町10-3  
TEL:050-5533-2900 (代表)  
<http://www.nijl.ac.jp/>



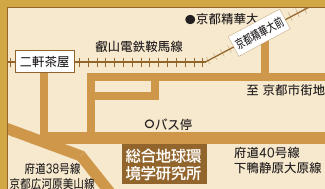
## 国際日本文化研究センター

〒610-1192  
京都市西京区御陵大枝山町3-2  
TEL:075-335-2222 (代表)  
<http://www.nichibun.ac.jp/>



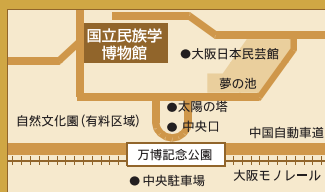
## 総合地球環境学研究所

〒603-8047  
京都市北区上賀茂本山457-4  
TEL:075-707-2100 (代表)  
<http://www.chikyu.ac.jp/>



## 国立民族学博物館

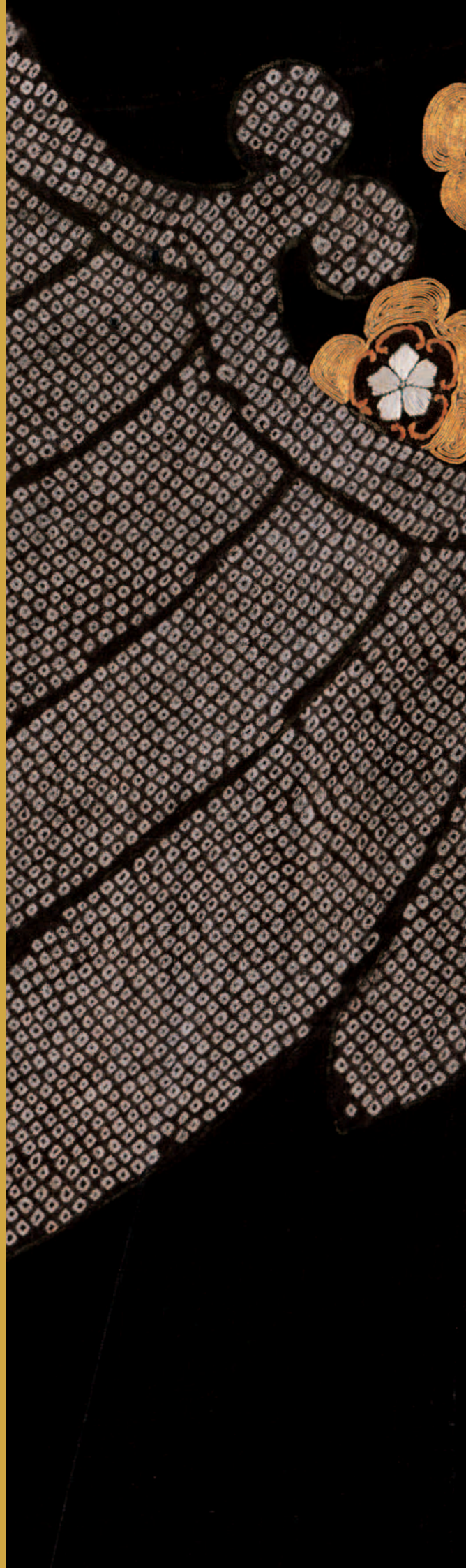
〒565-8511  
大阪府吹田市千里万博公園10-1 (万博記念公園内)  
TEL:06-6876-2151 (代表)  
<http://www.minpaku.ac.jp/>



## 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

〒105-0001  
東京都港区虎ノ門4-3-13  
神谷町セントラルプレイス2階  
TEL:03-6402-9200 (代表)  
<http://www.nihu.jp/>

(最寄り駅)  
地下鉄日比谷線神谷町駅 (出口4b徒歩約2分)  
地下鉄三田線御成門駅 (出口A5徒歩約10分)



番号	頁	項目	誤	正
1	6	平成19年度連携研究におけるシンポジウム・研究会開催及び刊行物発行	文化と往還	文化の往還
2	6	〃	日本コロンビア外地録音のディスコグラフィー的研究	日本コロムビア外地録音のディスコグラフィー的研究
3	6	〃	日本コロンビア外地録音のディスコグラフィー朝鮮編	日本コロムビア外地録音のディスコグラフィー朝鮮編
4	6	〃	日本コロンビア外地録音のディスコグラフィー上海編	日本コロムビア外地録音のディスコグラフィー上海編
5	6	〃	「東アジアの録音文化―音と美をめぐる―」東京大学東洋文化研究所（19.11.13）	「東アジアの録音文化―音と美をめぐる―」東京大学東洋文化研究所（19.11.23）
6	16	国文学研究資料館研究・基幹研究	創立以来―中略―以下の4研究課題を実施しています。	創立以来―中略―以下の3研究課題を実施しています。

青太字部分が訂正箇所。